

事務事業及び予算の執行実績  
(令和6年度分「一部令和5年度含む」)

静岡県立清水東高等学校

## 目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	3 2
学校施設の概要	3 3
在籍生徒調	3 5
入学志願者及び入学者数調	3 6
卒業生の動向調	3 8
生徒の状況	4 0
授業料収納状況調	4 2
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	5 0
預金調	5 1
郵券等受払調	5 1
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	5 2
委託料に関する調	5 4
補助金支出調	5 9
負担金支出調	6 0
建築工事調	6 4
公有財産調	6 8
借地借家等調	7 0
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	7 1
行政財産貸付・使用許可調	7 2
普通財産・借受財産等貸付調	7 3
職員公舎管理状況調	7 4
主要備品調	7 5
職員調	7 6
職員の年齢調	7 9
健康管理	8 0

## 事務事業の概要

### 1 概況

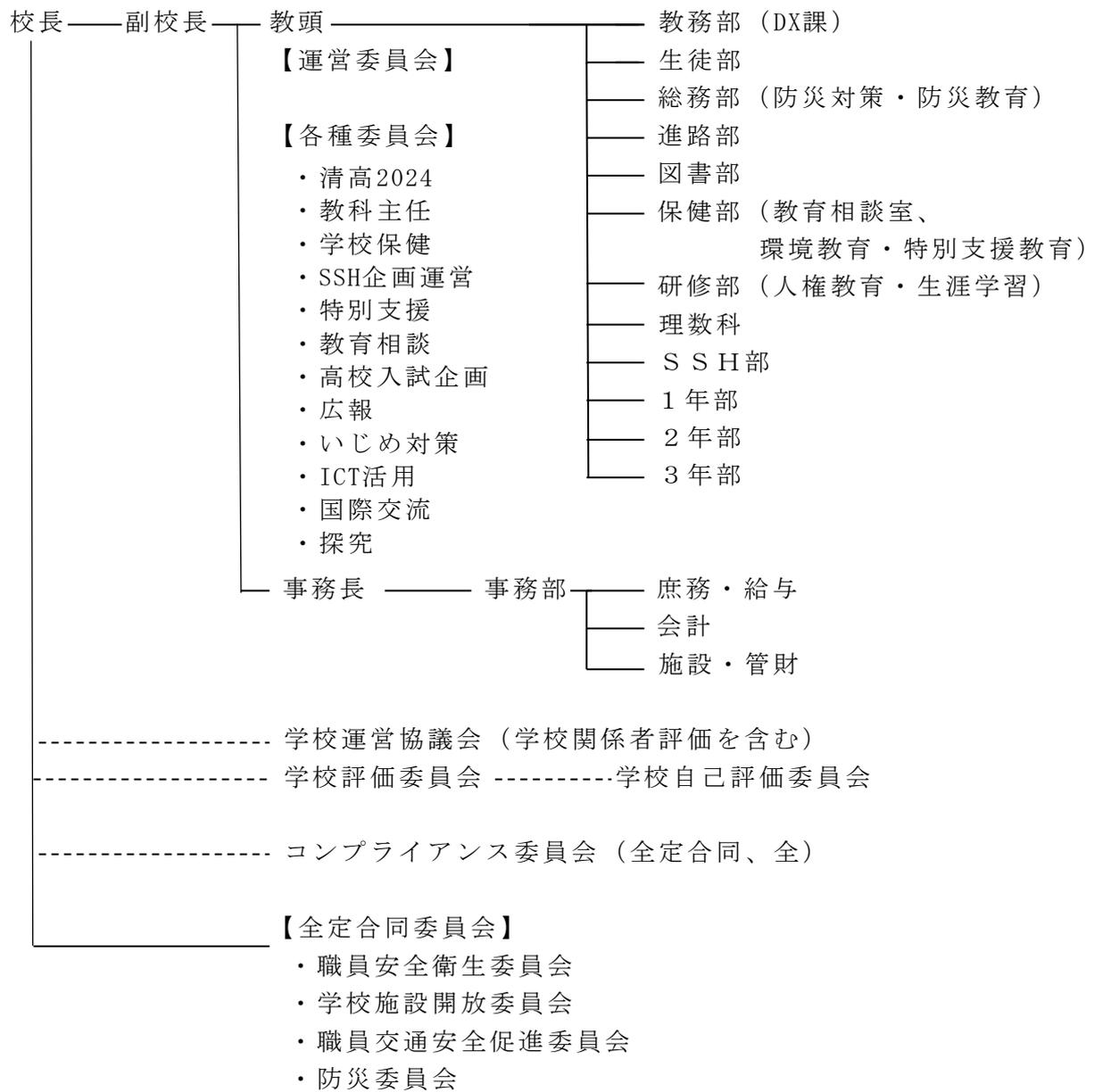
#### (1) 学校の沿革

大正12年11月20日	文部省告示第449号を以て設立許可、静岡県立庵原中学校と称する。
大正13年4月11日	静岡県立巴高等女学校にて入学式挙行、生徒定員 500人
大正13年6月22日	清水市秋吉町にて新校舎竣工、開校式挙行
昭和3年11月5日	創立5周年記念祝賀式挙行、校歌制定
昭和14年1月1日	静岡県立清水中学校と改称
昭和14年4月1日	生徒定員750人となる。
昭和17年4月1日	生徒定員1,000人となる。
昭和18年12月1日	校地拡張の整地並びに埋立工事完成
昭和19年8月1日	校舎本館及び付属建物完成、落成式挙行
昭和22年4月1日	学制改革に伴い新制中学校併設、1年生募集せず、生徒定員800人
昭和23年4月1日	学制改革に伴い静岡県立清水第一高等学校と改称
昭和23年10月23日	定時制課程開校式挙行
昭和24年4月1日	静岡県立清水東高等学校と改称、生徒定員700人
昭和25年4月1日	全日制普通科生徒定員1,050人（学年7学級）となる。
昭和26年10月1日	旧講堂を図書館に、旧図書館を音楽室への改造工事完了
昭和26年11月2日	新講堂完成、落成式挙行
昭和27年4月1日	全日制普通科学年6学級となる。
昭和30年4月1日	全日制普通科学年7学級となる。
昭和32年10月12日	体育館・合宿所完成、落成式挙行
昭和33年10月23日	サッカー部、富山国体で優勝、初の全国制覇
昭和38年4月1日	全日制普通科学年9学級となる。
昭和38年10月18日	創立40周年記念式典並びに本館落成式挙行
昭和39年4月1日	全日制普通科学年8学級となる。
昭和42年4月1日	全日制普通科学年7学級となる。
昭和43年3月2日	第2棟特別教室、図書館完成、落成式挙行
昭和43年4月1日	全日制に理数科（1学級）設置、普通科学年6学級となる。
昭和47年8月9日	サッカー部、全国高校総体で優勝
昭和48年11月3日	創立50周年記念式典挙行
昭和49年4月1日	全日制普通科学年7学級となる。
昭和51年4月1日	定時制普通科学年2学級となる。
昭和53年3月29日	第1棟校舎増築工事完成
昭和54年11月17日	体育館・格技場完成、落成式挙行
昭和55年3月25日	プール完成
昭和55年5月10日	野球雨天練習場完成
昭和55年8月8日	サッカー部、全国総体で優勝
昭和55年12月25日	弓道場完成
昭和56年8月8日	サッカー部、全国総体で優勝
昭和57年4月1日	全日制普通科学年6学級、定時制普通科学年1学級となる。

昭和58年 1月 8日	サッカー部、全国高校サッカー選手権大会で優勝
昭和58年 4月 1日	全日制普通科学年7学級、定時制普通科学年2学級となる。
昭和58年11月 2日	創立60周年記念式典挙行
昭和60年10月30日	第1棟校舎耐震補強工事完成
昭和61年 4月 1日	定時制普通科学年1学級となる。
昭和62年 4月 1日	全日制普通科学年8学級となる。
平成2年 4月 1日	全日制普通科学年7学級となる。
平成3年 8月 7日	サッカー部、全国高校総体で優勝
平成5年11月 4日	創立70周年記念式典挙行
平成9年10月23日	定時制創立50周年記念式挙行
平成12年 4月 1日	全日制普通科学年6学級となる。
平成13年 4月 1日	定時制課程は3修制・2期制、全教科選択制を導入
平成14年 3月29日	第2棟校舎耐震補強工事完成
平成14年 4月 1日	学校週5日制始まる。
平成15年 4月 1日	学校評議員制度を導入。学校評価委員会を発足
平成15年10月10日	創立80周年記念式典挙行
平成16年 4月15日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（平成18年度まで）
平成17年 3月30日	地震等災害時下水道接続型仮設トイレ設置(18基)
平成18年 2月15日	講堂・体育館耐震補強建築工事完成
平成19年 4月 1日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（平成23年度まで）
平成19年 7月15日	全国高校化学グランプリ金賞の生徒が日本代表として国際化学オリンピックに出場、銅メダル獲得
平成22年 3月30日	第20回日本数学オリンピック全国1位となり、川井杯と金賞を受賞。アジア太平洋数学オリンピックで国内優秀賞を受賞
平成22年 4月 1日	校訓を「金剛の意志」に変更
平成23年 7月26日	国際数学オリンピックで銀メダル受賞
平成24年 4月 1日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（平成28年度まで）
平成25年 4月 1日	全日制課程普通科学年7学級となる。
平成25年11月 1日	創立90周年記念式典挙行
平成26年 4月 1日	全日制課程普通科学年6学級となる。
平成29年 4月 1日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（令和3年度まで）
平成29年12月15日	第1棟校舎改修工事完成
平成30年 4月 1日	授業時間を60分から50分に変更
令和3年11月 4日	第1棟校舎増築棟及びプール解体
令和4年 4月 1日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（令和5年度まで）
令和5年 2月28日	新特別教室棟新築工事完成
令和5年 3月27日	野球雨天練習場解体
令和5年10月28日	創立100周年記念式典挙行
令和6年 4月 1日	文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受ける。（令和10年度まで）

(2) 組織図

【全日制】



## 2 目指す学校像

### (1) 教育目標

「金剛の意志」を持つ、知・徳・体を兼ね備えた人格の育成を目指す。

#### 実践目標

「誠実、清楚、気品ある人格を磨こう。自主、自律、旺盛な研究意欲を持とう。明朗、闊達、責任感をもって人事を尽くそう。」のもとに、清高の良き伝統と自主・自律の校風を継承発展させ、高い志をもって社会の発展に貢献する指導的人材を育てる。

### (2) 目標具現化の柱

- ア 安心安全な学校を作る。
- イ ICT教育の推進と情報発信
- ウ 授業力向上と新学習指導要領に対応した授業を行う。
- エ SSH活動の深化・充実
- オ 健康でたくましい心身を育成する。
- カ イノベーションハイスクールとして探究活動を通して進路意識の明確化
- キ 社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。
- ク ワーク・ライフバランスの推進
- ケ 確実に効果的な学校事務執行を推進する。

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標は**太字ゴシック体**で記載）

	取組目標	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いじめに関するトラブル2件</li> <li>○ネットに関するトラブル0件</li> <li>●授業評価アンケートなどで、スマートフォンや1人1台端末の使用が増えている中、今のところ不適切な状況はないが、今後も引き続き生徒の様子を観察し使用方法について観察していく。</li> </ul>
	授業中、部活動中、登下校中（特に自転車）の事故防止	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車交通事故は昨年度よりも2件増加。</li> <li>●交通事故件数減を目指すだけでなく、交通ルールの順守とマナーに対して徹底させる。</li> <li>○新校舎を含め校内の環境整備について安全と使いやすさに配慮して整備することができた。</li> <li>○熱中症重症者が出ることがなかったが、継続的に出さない対応をしていく。</li> </ul>
	防災体制の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一斉メールからCラーニングの移行は保護者含めスムーズに行われ、浸透してきたと思われる。</li> <li>●Cラーニングの活用方法を考えていきたい。</li> </ul>
	校内美化活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に配慮した行動がとれている。</li> <li>●美化委員会による校内美化のための点検や呼びかけを継続して実施していく。</li> <li>●校内が完全に整備され、生徒の動線が確立されたら、校舎や体育館に可能な限り泥を入れない対策を講じなければいけない。</li> </ul>

	感染症の予防	A	○感染症対策を自ら行う意識を高めることができた。 ○換気を徹底させることができた。
イ	100周年記念事業の運営	A	○同窓生の団結がみられ、改めて偉大な学校ということを確認できた。 ●多くに素晴らしい同窓生がいるので今後も何かしら学校の発展にかかわってほしい。
ウ	制服の検討	A	○来年度より導入する女子スラックスが完成した。 ●今後の社会状況と本校の立ち位置を考えた、新しい制服の在り方を検討する。
エ	BYODによるICTを活用した授業の研究	A	○新校舎の整備が整い、活用が円滑にできた。 ○新転任職員の研修が早期に実施できた。
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	A	○学校webページを充実することができた。
ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	A	○講義形式のみの授業はほぼ皆無となっている。 ●概ね目標の数値が達成できている。総量の検証が今後の課題と思われる。 ○授業参観週間を設定することで機会を確保できた。 ○新しい教育課程や授業評価に対して職員が積極的に自己研修に取り組んだ結果が反映されていると思われる。 ●研究授業や授業評価を通して課題を教科間で共有して、連携した取り組みをさらに推進したい。
	4校合同研修会の実施	B	○他校における探究活動やアクティブラーニングの取り組みを知り、本校での活動に生かすことができた。 ●研修会の形式や内容について、他の職員研修とも組み合わせた継続しやすい方法を検討していきたい。
カ	SSH新制度の研究	A	○SSH先進校を複数視察し、得た情報を精査・共有することができた。 ○管理機関等と協議し、令和6年度認定枠としての申請を行うことができた。 ●令和6年度以降の本校SSH活動の最適化を今後検討する必要がある。 ○令和4年度入学生も含め教育課程の変更を行い、きめ細やかな指導が可能となった。
	SSH活動の充実	A	○新しい課題研究プログラム「清高探究メソッド」の開発が予定通り進んでいる（次年度3年間のプログラムとして完成予定）。 ○目標の一つであったSSH東海フェスタで優秀賞を受賞し、全体会での発表を行うことができた。 ○課題研究、不思議実験講座において、成果目標を達成できた。

			○国立遺伝学研究所訪問を4年ぶりに実施することができ、成果目標も達成できた。
キ	欠席、遅刻、早退の減少	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍を経て出席停止の取扱いが変わったため、来年度以降の経過に注視する必要がある。</li> <li>○学年が上がるにつれて、睡眠時間を確保した生活が根付いてくる。</li> <li>●1年生は60.6%であり、生活ペースの確立が課題である。</li> </ul>
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループエンカウターの実施により、入学当初に人間関係を構築するための貴重な機会を与えることができた。</li> <li>●2・3年生のメンタル問題で不登校になる生徒のケアをしていく。</li> </ul>
	部活動の充実、成績の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○限られた制約の中で充実した活動ができた。</li> <li>○全国大会、東海大会等に出場する活躍をした部活動が多数あった。</li> <li>●文武両道をめざす本校として運動部の更なる活躍が期待される。</li> </ul>
ク	探究活動の研究	A	○新課程2年目となり、1・2年生のSSHは概ね順調であった。
	基礎学力の定着（校内学力試験の活用）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業へ取り組んでいると答える生徒が95%以上おり、わずかに上昇している。</li> <li>○毎学期の評定分布は例年と比較して同程度の分布になった。</li> <li>○授業の分かりやすさやレベルについて満足度が高かった。</li> <li>○進路部担当者が年間を通して個票返却を一括で担当したため、定期考査、校内模試いずれも処理が早かった。</li> </ul>
	読解力をつける	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書の効果的な取組に関してはおおむね達成できた。</li> <li>●読書感想文及び、新書レポート執筆について、さらに指導を徹底したい。</li> </ul>

	<p><b>個に合った適切な進路指導、進路面談の充実</b></p>	<p>A</p>	<p>●進路に関する1, 3年保護者が目標に届かなかった。1年生はPTA総会の後に実施したが、平日実施による参加者の低さが目立った。3年生は土曜日に実施したが、総体予選により参加できない保護者が多くおり、後日視聴できるように映像配信を希望する要望が強く、それに応えた。</p> <p>●「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合の目標値70%については、56%であり、生徒自身が今の自分の努力に満足していないことの表れであるため、意欲の高さが伺えて良いと思われるが、もっと自信をもって生活できるように、声掛けを行う必要がある。</p> <p>○研究内容を詳しく学び、研究環境に触れたり実験などを体験したりすることによって、希望する進路への意識を高めることができた。</p> <p>●受験生として、「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合は、80%以上を求めたい。</p> <p>○大学での研究がどのようなものであるか知り、学生や大学院生の現在の生活や受験勉強の方法など具体的な話を多く伺うことで大変刺激を受け、大学進学への意欲を高めることができた。</p> <p>○講義では最新の研究の内容を学び、1つの研究にも多くの分野のプロフェッショナルが関わって成り立っていることを具体的に知ることができた。さらに、実際の研究施設を見ることで研究に対する関心を高めることができた。</p> <p>○「プロフェッショナルと語る会」にて多くのOBの方々のご協力を得て、円滑に実施することができ、成果目標も達成することができた。</p> <p>○昨年度開発した進路選択に関わる取組を、改良を加えつつ1年SSHにて実施することができた。</p>
	<p>個の実力にあった文理選択（1年生）</p>	<p>A</p>	<p>○文理選択の予備調査において志望大学や志望分野との整合性を生徒に確認した上で、仮登録を行った。そのため、本登録でほとんど変更が生じなかった。</p> <p>○学校で発行された進路関係の資料を読んだり、オープンキャンパスに参加したりして、進路について具体的に考え始めた生徒がいる。</p> <p>○文理選択のガイダンス（入学式、学年集会）や面談の成果もあり、スムーズな選択ができた。</p> <p>○おおむね目標が達成できた。今後も生徒の進路実現が叶うように、支援を充実させていけるように努力したい。</p>
<p>ケ</p>	<p>あいさつの励行</p>	<p>A</p>	<p>○あいさつすることは定着してきた。</p> <p>●場に応じたあいさつができると更に良い。</p>

	生徒会活動、ボランティア活動の充実	B	<p>○学校行事の企画運営については、感染症対策を引き続き考慮しながら、新しいスタイルを確率していく。</p> <p>●生徒会を中心にボランティア活動への参加呼びかけをしていく。</p>
	研究旅行の充実	A	<p>○班別研修の計画の際には、LHRの時間に旅行者に來校してもらい、生徒が直接相談できるような時間を設定した。</p> <p>○平和学習に関しては、事前の学年集会において高校生平和大使の生徒の発表を行ったこともあり、普通科・理数科ともに現地で充実した研修ができたようであった。</p> <p>●国際交流については日程が短かったこともあり計画に入れられなかったが、観光地やホテルでは外国人観光客が非常に多く、ちょっとした交流ができた生徒もいたようであった。</p> <p>●今年度についてはコロナ禍の不安もあり、昨年度の秋には国内旅行への変更で検討を始めた。来年度については海外旅行で計画を進めている。</p> <p>○科学技術施設の訪問、自然体験、平和学習、文化体験など、充実した研修を実施することができた。</p>
コ	休暇取得促進日の設定	A	○学校行事を調整することと、個々に声掛けを行うことで、休暇を取りやすくなっている。
	業務の見直し、スクラップの推進	A	<p>○保護者連絡について、情報が保存できる状態となることは有効である。</p> <p>●ICT機器の活用には、研修と実際に使うことが必要である。</p>
サ	事務室運営の効率化	B	○担当者発案による業務改善を進めることができた。
	法令順守の徹底	B	<p>○物品要求書提出の徹底により、事業仕分けによる会計処理を推進できたと考える。</p> <p>○学校徴収金会計の適正処理が行われ、すみやかな返金処理ができています。</p> <p>●物品等の値上げや海外修学旅行の実施等により、来年度の学年費等会計（受益者負担会計）の徴収額増加が見込まれる。費用対効果等により執行見直しするなどし、これ以上の徴収額の抑制を検討する必要がある。</p> <p>○適正に管理できていることから、これを維持していく。</p>
	安全安心な教育環境の維持	B	<p>○解体工事及びその跡地整備は、令和6年10月には終了予定である。</p> <p>●跡地は、グラウンドとなるが防球ネット等付帯施設は今回の工事に含まれていないので、今後も県教委に整備をお願いする必要がある。</p>

(2) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標（重点目標は**太字ゴシック体**で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策基本方針に基づく取組を実施</li> <li>スマートフォン等の使い方の指導の充実、スマートフォン講座の実施</li> <li>いじめアンケートを年2回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに対するトラブルの事前防止</li> <li>いじめへの対処の確実な実施</li> <li>ネットに係るトラブル：0件</li> <li>「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：95%</li> <li>いじめに対するトラブルの事前防止</li> </ul>
	授業中、部活動中、登下校中（特に自転車）の事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動に使用する設備等の環境整備を進める。</li> <li>保護者と連携した登校指導の実施</li> <li>警察と連携し、新入生に対して交通安全教室を実施</li> <li>突発的事故を想定した講習の実施</li> <li>特に体育授業や行事において、熱中症防止のため、随時水分補給等の対策を各自が取れるよう配慮する。</li> <li>保健だよりでの安全の呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の事故0件</li> <li>登下校時の自転車事故件数2割減</li> <li>職員対象のAED講習会の実施</li> <li>校内活動中に熱中症重症者を出さない。</li> <li>「保健だより」毎月発行</li> </ul>
	防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール配信機能を用いて防災ツールとしての活用。家庭と連携して防災意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cラーニング、Google クラブルームによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施</li> <li>防災訓練を年2回実施</li> </ul>
	校内の美化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会による清掃点検や呼びかけにより、校舎内を美しく保つ意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85%</li> </ul>
	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症から身を守る意識の徹底</li> <li>毎日の健康観察・手洗い・手指消毒・換気の徹底</li> <li>「保健だより」による呼びかけを随時行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85%</li> </ul>
イ	<b>BYODによるICTを活用した授業の実践</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果を上げるICT機器活用法の確立と円滑なBYODの導入・活用法を模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業におけるICT機器活用：100%</li> <li>教育用アプリ（ジャパンナレッジスクール、ロイロノートなど）の活用：90%</li> </ul>
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校webページへの記事掲載を充実させる。</li> <li>生徒の活動の情報発信を活発にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動を中心に教務部記事を月1回のペースで掲載する。</li> </ul>
ウ	<b>主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、対話的で深い学びを意識した授業実践の充実を図る。</li> <li>生徒による授業評価を実施し、状況の客観的把握に基づいた授業改善を図る。</li> <li>適切な課題の在り方を研究する。</li> <li>校内での授業交流や他校の研究授業等、様な研修機会を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を実践する。（各自学期に1回以上）</li> <li>生徒による授業評価を年2回実施</li> <li>年間2回以上、他の教員の授業を見学した教員の割合：80%</li> </ul>
	4校合同研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校での研究授業や講演内容等の研修機会を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加教員により、研修内容を各教科・分掌で共有する。</li> </ul>

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
エ	<b>SSH新制度の研究</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期SSH申請に向けた新制度（先導的改革型、認定枠）の情報収集</li> <li>次期SSH採択に向け、教育課程の編成を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の指導計画と評価法を完成させる。</li> <li>本校のSSHの在り方、方針を立案する。</li> </ul>
	SSH活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSH活動の中核となる課題研究の充実</li> <li>新教育課程における課題研究プログラムの完成</li> <li>各種発表会、コンテストへの参加</li> <li>不思議実験講座等の普及活動の充実</li> <li>国立遺伝学研究所への訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題研究を中心としたSSH活動は有意義である」と答える生徒の割合：80%</li> <li>不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5点（4点中）</li> <li>国立遺伝学研究所訪問（実施できない場合は代替行事）は有意義だった」と答える生徒の割合：80%</li> </ul>
オ	欠席、遅刻、早退の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠統計調査を行い、過年度との比較を行う。</li> <li>睡眠時間を最低6時間は確保させ、授業や学習に集中できる生活習慣を整えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す。</li> </ul>
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループエンカウンターにより、初期段階での人間関係のつまづきをなくす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：80%</li> </ul>
	部活動の充実、成績の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率の良い部活動運営</li> <li>外部人材の活用、「清高健児を応援する会」による適切な部活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会5部活、県大会10部活出場</li> <li>「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75%</li> </ul>
カ	<b>基礎学力の定着（校内学力試験の利用）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学習指導要領に沿った観点別の学習評価方法を完成させる。</li> <li>テスト実施後の個票返却を通じた振り返りの活動支援</li> <li>多様な生徒のレベルに確実に対応出来るための教員の授業力向上</li> <li>全学年での英数国週テスト実施</li> <li>特指、土曜講座等の適切な実施</li> <li>校外模試の教員による分析会の推進</li> <li>校外模試の生徒による振り返りの支援</li> <li>外部教育機関の職員研修への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の評価結果について分析する。</li> <li>テスト返却1週間後の個票返却</li> <li>「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85%</li> <li>「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%</li> </ul>
	<b>個に合った適切な進路指導、進路面談の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学力観や新テストの導入など高大接続の現状に対応した情報の発信</li> <li>情報収集やデータ分析の生徒・職員への提示</li> <li>進路目標を具体化するための大学訪問の実施</li> <li>オープンキャンパスへの参加奨励</li> <li>年間3回以上の面談を行い、進路実現を促す。</li> <li>新旧担任連絡会の実施</li> <li>卒業生と語る会の実施</li> <li>予備校ガイダンスの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80%</li> <li>オープンキャンパスへの2年次までの参加：90%</li> <li>「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70%</li> <li>「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80%</li> <li>「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80%</li> </ul>

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内進路検討会の年2回の実施</li> <li>・進路講演会の実施</li> <li>・進路目標を意識するよう目標点を設定した校外模試、ハイレベル模試の実施</li> <li>・プロフェッショナルと語る会の実施</li> <li>・SSH活動を通じた社会貢献の意識の育成</li> <li>・何をどのように学ぶかを考える機会として理数科では東大訪問を実施し、個々の進路実現につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80%</li> <li>・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80%</li> <li>・「大学・研究所等の訪問は意義があった」と答える生徒の割合：75%</li> </ul>
	個の実力にあった文理選択（1年生）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を的確に理解し、個に応じた進路目標を確立させる。</li> <li>・難関大志望者の意識を高める。</li> <li>・適性検査、進路希望調査、受験科目調べを行う。</li> <li>・「進路ノート」「進学資料」「合格体験記アプローチ」「最新大学情報」の活用</li> <li>・進路ノートの1冊化を進め、3年間を見通した進路指導を行う。</li> <li>・計画的な文理選択の方法の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料&amp;合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75%</li> <li>・不本意な文理選択となる生徒を出さない指導を行う。</li> </ul>
キ	生徒会活動、ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の生徒による自主的運営と地域との連携を図る。</li> <li>・各部活動単位でのボランティア活動への参加呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80%</li> <li>・各部活動で1回以上ボランティア活動を実施した割合：80%</li> </ul>
	研究旅行の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科：日本文化の理解を深め、国際交流も取り入れる。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。</li> <li>・理数科：科学技術施設を取り入れたコースを作る。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。</li> <li>・2024年度海外研究旅行実施に向けて研修内容の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80%</li> </ul>
ク	休暇取得促進日の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月21日(月)から23日(水)を休暇取得促進日として、土日を含めて職員の休暇を取りやすく設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合：90%</li> </ul>
	業務の見直し、スクラップの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの環境整備を推進し、業務の効率化やペーパーレスの推進・牽引を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷紙の使用量1割減を目指す。</li> <li>・19:30以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。</li> </ul>
ケ	事務室運営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な事務処理を目指した業務改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事務職員が1件以上の業務改善を提案</li> </ul>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
法令順守の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的で効果的な予算執行の実施</li> <li>・学校徴収金等事務処理基準に沿った業務処理を行う。</li> <li>・個人情報の適正な管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。</li> <li>・個人情報の適正な保管による紛失及び漏洩事故ゼロ</li> </ul>
安全安心な教育環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な校内施設の点検を行う。</li> <li>・校舎解体工事は、学校運営と工事進捗の調和を図りながら、安全な教育環境を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修</li> <li>・的確な移転計画資料を作成する。</li> <li>・計画的な備品等の購入</li> </ul>

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

##### 【全日制】

年度	取組概要	成果及び課題
5年度	SSH事業を推進し全国大会上位入賞を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH〈化学グランプリ2023〉東海支部長賞</li> <li>・SSH生徒研究発表会</li> <li>・第40回山崎賞</li> <li>最優秀賞「BZ反応から見た振動反応の反応機構の解明」</li> <li>優秀賞「チタン陽極酸化での色の変化と酸化被膜形成」</li> <li>優秀賞「リチウムイオン電池の劣化とその対策」</li> <li>優良賞「フェノール類を用いた指示薬の合成」</li> <li>優良賞「粉粒体の振動とブラジルナッツ効果の関係2」</li> <li>・自然科学部化学班</li> <li>〈第47回全国高校総合文化祭かごしま総文〉出場</li> <li>「疑似濃淡電池の反応機構とその利用についての考察」</li> <li>〈高文連自然科学専門部生徒理科研究発表会県大会〉</li> <li>高文連会長賞(県1位)第48回全国高校総合文化祭(ぎふ総文)出場決定</li> <li>「チタン陽極酸化での色の変化と酸化被膜形成の考察」</li> <li>推薦により第48回全国高校総合文化祭(ぎふ総文祭)出場決定</li> <li>「リチウムイオン電池の劣化とその対策について」</li> <li>〈第32回東海地区高等学校化学研究発表交流会〉</li> <li>優秀賞「チタン陽極酸化での色の変化と酸化被膜形成の考察」</li> <li>・第23回日本情報オリンピック本選進出</li> <li>・京都大学ポスターセッション2023出場</li> <li>・SSH東海フェスタ2023出場</li> <li>・鈴木梅太郎顕彰会主催鈴木賞</li> <li>・静岡大学FSS</li> <li>自然科学部化学班 インドネシア教育大学での研究発表</li> <li>「チタン陽極酸化での色の変化と酸化被膜形成」</li> </ul>
	県教委指定オンリーワン・ハイスクール(イノベーション・ハイスクール)事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から始まる新教育課程において、本校普通科の探究活動をさらに充実させるための検討委員会を設置し、常葉大学大学院教授に御指導いただき、計画を実施できた。</li> <li>・1・2年希望生徒を対象に、グローバルスタディーズプログラム(静岡市内各校合同)を実施した。</li> <li>・静岡産業大学教授を講師として招聘し、「ICT活用の目的と使い方」をテーマとした校内研修会を開催した。</li> <li>・医療系講座を6回開催。2,3年生の医・薬・看護・検査技術系志望者が対象。内容は「医療人を目指して」等、学校では指</li> </ul>

	<p>導できない専門的な領域を含む。外部講師を招聘し模擬面接等を行い、医療系進学者が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を考え、主体的に行動できる生徒を育成するため、希望生徒を対象に大学訪問4校、研究機関等訪問を実施した。</li> <li>・地元企業との連携を進め、三菱電機静岡製作所、IAIの各部署から職員を派遣してもらい、生徒によるインタビューや懇談の機会を設けた。</li> <li>・静岡大学と連携し、SSH課題研究に係る共同研究を実施した。</li> </ul>
<p>充実した部活動を継続し、たくましい心身を育成する。</p>	<p><b>【文化部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁部 &lt;静岡県高校囲碁選手権大会&gt; 個人戦 女子の部 1位(全国大会出場) 男子の部 2位(全国大会出場) &lt;全国高校囲碁選手権大会&gt; 男子団体戦出場 個人戦 女子出場 男子出場 &lt;第47回全国高等学校総合文化祭(かごしま総文)囲碁部門 女子個人戦 第14位 男子個人戦 第16位 &lt;静岡県高等学校総合文化祭囲碁部門&gt; 団体の部(男子) 優勝(東海大会出場) 男子個人の部A 2位 (東海大会出場) &lt;第43回東海地区高等学校囲碁選手権大会&gt;(岐阜県岐阜市) 団体の部(男子) 優勝 (全国高等学校囲碁選抜大会(大阪) 出場決定) &lt;静岡県高等学校囲碁新人十傑戦大会&gt; 男子個人の部A 2位、3位 (第48回全国高等学校総合文化祭(ぎふ総文)囲碁部門出場決定) &lt;全国高等学校囲碁選抜大会(大阪)&gt;男子団体戦第8位</li> <li>・英語部 &lt;第18回全国高校生英語ディベート大会静岡県大会&gt; 第2位(全国大会出場) &lt;第9回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会&gt; 出場 &lt;第13回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯HPDU Competition 2024 静岡県大会&gt; 第2位(全国大会出場)</li> <li>・書道部 &lt;第22回全国書道展&gt; 奨励賞 &lt;第32回国際高校生選抜書展&gt; 入選</li> <li>・音楽部 &lt;静岡県高等学校総合文化祭「器楽・管弦楽」専門部第27回演奏会&gt; 文化連盟賞受賞(全国高等学校総合文化祭出場決定)</li> <li>・新聞部 &lt;静岡県高校新聞コンクール&gt; 最優秀賞 (第47回全国高等学校総合文化祭(かごしま総文)新聞部門出場)</li> </ul> <p><b>【運動部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部&lt;東海高校総体&gt;男子100m6位 (全国大会出場)</li> <li>・ヨット競技 女子レーザーラジアル級 (東海大会出場)</li> <li>・ウエイトリフティング &lt;第71回静岡県高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技&gt; 女子の部優勝 &lt;第29回東海高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会&gt; 4位</li> </ul>
<p>清高琢徳プロジェクトの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと協働してエコリサイクル活動を5・10・2月に実施し、生徒、職員、保護者、地域の方が徳を高め合う意識を持つことができた。地域及び同窓生の協力が大変ありがたい。</li> </ul>

年度	取組概要	成果及び課題
6年度	SSH事業を推進し全国大会上位入賞を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH生徒研究発表会（神戸） ポスター発表賞、生徒投票賞のW受賞 「流体力学を用いた血栓症予防の考察」</li> <li>・静岡県学生科学賞 県科学教育振興委員会賞 「流体力学を用いた血栓症予防の考察」 「化学電池の挙動調査」 「身近な物質を用いた光アップコンバージョンの開発」</li> <li>・鈴木梅太郎顕彰会主催第70回鈴木賞 準賞 「些音聞金の音減衰効果について」 「植物の生育条件を変化させることによる気孔開度変化」</li> <li>・京都大学ポスターセッション2024出場 「電解質の状態から見る二次電池の性能比較」</li> <li>・SSH東海フェスタ2024出場 口頭発表優秀賞 「The study of the behavior of chemical cells（化学電池の挙動調査）」 「ダウンフォースを最大化させるグランドエフェクトカーの形状の研究」 「些音聞金の音減衰効果について」</li> <li>・しずおか高校生探究フェスタ 「添加物の有無による劣化への影響の違い」 「防弾におけるダイラタント流体の最小の厚さの測定と応用」</li> <li>口頭発表優秀賞 「化学電池の挙動調査」</li> <li>・鈴木梅太郎顕彰会主催鈴木賞 準賞 「些音聞金の音減衰効果について」 「植物の生育条件を変化させることによる気孔開度変化」</li> </ul>
	充実した部活動を継続し、たくましい心身を育成する。	<p>【文化部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁部 〈第48回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文2024）囲碁部門〉 男子個人戦、男子団体戦出場 〈全国高等学校囲碁選抜大会（大阪）〉男子団体戦第8位</li> <li>・英語部 〈第10回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会〉 出場 〈第14回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2025 静岡県大会〉第6位（全国大会出場）</li> <li>・音楽部 〈第48回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文2024）器楽・管弦楽部門〉出場</li> <li>・新聞部 〈第1回全国高校新聞コンテスト〉金賞 〈第29回全国高校新聞年間紙面審査賞〉入賞 〈第48回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文2024）新聞部門〉出場</li> <li>・自然科学部化学班 〈第48回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文2024）〉出場 「チタン陽極酸化での色の変化と酸化被膜形成の考察」 〈高文連自然科学専門部生徒理科研究発表会県大会〉 高文連会長賞（県1位）第49回全国高校総合文化祭（かが</li> </ul>

		<p>わ総文) 出場決定  「疑似濃淡電池の反応機構の解明」  &lt;化学グランドコンテスト2024&gt;審査委員長賞 (全国4位)  →ISYF2025 (シンガポール) にて研究発表 (繰り上げ)  「疑似濃淡電池の反応機構の解明」  &lt;第40回山崎賞&gt;  「硫酸リグニンの活用法の模索」 (化学班) 優秀賞  「食品由来AGEsに着目した抗老化加熱条件 (化学班) 優秀賞  「疑似濃淡電池の反応機構の解明 (化学班) 優秀賞  &lt;JSEC2023第21回高校生・高専生科学技術チャレンジ&gt;  「疑似濃淡電池の反応機構の解明」  「健康の観点からのメイラード反応の最適な加熱条件の考察」</p> <p><b>【運動部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子ソフトテニス部</li> </ul> <p>&lt;第72回静岡県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技&gt;県ベスト16 (東海高校総体出場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部</li> </ul> <p>&lt;東海高校総体&gt;男子400m 6位、男子200m 6位、女子走幅跳 6位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨット</li> </ul> <p>女子ILCA 6級第3位 (東海大会出場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイトリフティング</li> </ul> <p>&lt;第72回静岡県高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技&gt; 女子の部優勝 (東海高校総体出場)  &lt;全国高等学校女子ウエイトリフティング競技会金沢大会&gt; 出場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子ハンドボール部</li> </ul> <p>&lt;第53回東海高等学校ハンドボール選手権大会兼第48回全国高等学校ハンドボール選抜大会東海地区予選会&gt;静岡県1位、東海大会出場</p>
	清高琢徳プロジェクトの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと協働してエコリサイクル活動を5・10・2月に実施し、生徒、職員、保護者、地域の方々との連携を図ることができた。地域及び同窓生の協力は貴重である。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 令和6年度末異動状況

【全日制】

(単位：人)

職名 区分	本務職員											任期付・会計年度任用職員								計				
	教育職員						行政職員					本務計	任期付教諭	任期付実習助手	臨時的任用教諭	臨時的任用主事	非常勤講師	非常勤労務職員	非常勤嘱託員		ALT	小計		
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	小計	事務長	主任	主査	主任												小計	
転出者			1	6		1	8			2	1	3	11										0	11
退職者				2			2					0	2			1	1	1	2				5	7
再任用(退職)				8		1	9					0	9										0	9
転入者			1	4			5			3		3	8										0	8
新任者				2			2					0	2	1	1				2	2			6	8
再任用(新任)				9		1	10					0	10										0	10
差引増減	0	0	0	△1	0	△1	△2	0	0	1	△1	0	△2	1	1	△1	△1	1	0	0	0	1	△1	

【定時制】

(単位：人)

職名 区分	本務職員								任期付・会計年度任用職員				計	
	教育職員				行政職員				本務計	任期付教諭	臨時的任用教諭	非常勤講師		小計
	教頭	教諭	養護教諭	小計	主任	主事	小計							
転出者	1	3		4			0	4				0	4	
退職者				0			0	0		1	1	2	2	
再任用(退職)				0			0	0				0	0	
転入者		1		1			0	1				0	1	
新任者	1	1		2			0	2	1		1	2	4	
再任用(新任)				0			0	0				0	0	
差引増減	0	△1	0	△1	0	0	0	△1	1	△1	0	0	△1	

## (2) 現員数 (令和7年4月1日現在)

(単位:人)

職名 区分	本務職員										任期付・会計年度任用職員							計				
	教育職員						行政職員				本務 計	任期付 教諭	任期付 実習 助手	非常 勤 講師	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	非 常 勤 労 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		A L T	小 計		
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査											主 任	小 計
全日制	1	1	1	50	1	1	55	1	1	3		5	60	1	1	7	1	3	1	1	15	75
定時制			1	6	1		8				1	1	9	1		8					9	18
計	1	1	2	56	2	1	63	1	1	3	1	6	69	2	1	15	1	3	1	1	24	93

\* (再掲) 再任用教諭:フルタイム6人、週19時間25分3人  
再任用実習助手:フルタイム1人

## (3) 健康管理について

## ア 令和5年度

- (ア) 疾病の早期発見、早期治療に努めることを目標に、健康管理医及び衛生管理者の指導のもと、生活習慣病検診等の健康診断受診率100%を達成した。
- (イ) 職員安全衛生委員会を開催し、学校生活における保健衛生や環境整備についての意見を取り上げ、労働環境の改善を図った。
- (ウ) ガイドラインに沿った時間外労働の縮減に向け、職員会議等の機会に意識改革の必要性を説き、認識を高めた。
- (エ) 新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、職員に日常の健康維持対策と感染症の状況を職員会議や朝の打ち合わせ等で周知した。

## イ 令和6年度

- (ア) 疾病の早期発見、早期治療に努めることを目標に、健康管理医及び衛生管理者の指導のもと、生活習慣病検診等の健康診断受診率100%を達成した。
- (イ) 職員安全衛生委員会を開催し、学校生活における保健衛生や環境整備についての意見を取り上げ、労働環境の改善を図った。
- (ウ) ガイドラインに沿った時間外労働の縮減に向け、完全退庁時刻20:00を設定し、職員会議等の機会に意識改革の必要性を説き、認識を高めた。
- (エ) 職員に日常の健康維持対策と感染症(インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等)の状況を職員会議や朝の打ち合わせ等で周知した。

(4) 教職員の研修について

	令和5年度	令和6年度
研修の目的	<p>ア 人事評価制度の効果的な実施、ICT機器の活用と教育ソフトの活用の実践的な校内研修、総合教育センターの研修、各教育研究会、予備校の講座等への参加を通じて教員の教科指導力のより一層の向上を目指す。</p> <p>イ 公開授業、本校への中学生の学校訪問などの際、学校外の意見を集約・公開する。また、教諭間で授業見学を活発に行い意見交換する。それらの意見、感想等を生かして授業改革、学校改革を推進する。</p> <p>ウ SSH事業に全職員で関わることで、他校にはない行事や手法について理解し、自らの授業力を向上するとともに他校への普及に努める。</p>	<p>ア 人事評価制度の効果的な実施、ICT機器の活用と教育ソフトの活用の実践的な校内研修、総合教育センターの研修、各教育研究会、予備校の講座等への参加を通じて教員の教科指導力向上を目指す。</p> <p>イ 公開授業、本校への中学生の学校訪問などの際、学校外の意見を集約・公開する。また、教諭間で授業見学を活発に行い意見交換する。それらの意見、感想等を生かして授業改革、学校改革を推進する。</p> <p>ウ 全職員がSSH事業に関わることで、他校にはない行事や手法について理解し、自らの授業力を向上するとともに他校への普及に努める。</p>
研修内容及び成果	<p>ア ・授業公開週間以外でも、管理職授業参観を積極的に実施し、懇談、助言することで各自の授業改善の促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による授業評価」や教員間の「授業交流」を定期的実施することで、新たな教授法に挑戦しながら、授業改善を行った。ICT機器の活用も進み、教育ソフトを使った効果的な情報共有ができることで、探究的素養を深める授業を実施できた。</li> <li>・感染症による出席停止となる生徒や発熱などの生徒などに対して、グーグルクラスルームによる授業配信が確立されてきた。グーグルクラスルームの活用により、HRだけでなく、教科や部活動での活用が進んだが、配信については時間の設定を行った。</li> </ul> <p>イ ・「学校公開」を積極的に行うことで、中学生及び保護者の本校の理解を広め、生徒募集につながるようにした。中学生とその保護者向けの公開授業は7月の第4週と10月の土曜日に延べ4日実施し、土曜講座も9月に2回公開した。在校生保護者向けの公開授業は6月の平日に3日間実施した。その結果、どの職員も、いつでも見学できるような授業が実施されている。</p> <p>ウ ・BYOD導入3年目となり、生徒・教員のICT機器の授業活用がより一層進化した。第1学年の職員は、SSH基礎講座において、必ずロイロノートを利用するため、情報関係の知識やスキルが向上するようになっている。</p>	<p>ア ・授業公開週間以外でも、管理職授業参観を積極的に実施し、懇談、助言することで各自の授業改善の促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による授業評価」や教員間の「授業交流」を定期的実施することで、新たな教授法に挑戦しながら、授業改善を行った。ICT機器の活用も進み、教育ソフトを使った効果的な情報共有を行うことにより、探究的素養を深める授業を実施できた。</li> <li>・グーグルクラスルームによる授業配信が確立されている。「遠隔授業」のための授業配信も滞りなく実施出来た。</li> </ul> <p>イ ・「学校公開」を積極的に行った。中学生及び保護者の本校への理解を広め、生徒募集につながるように努めた。中学生とその保護者向けの公開授業は7月の第4週と10月の土曜日に延べ4日実施し、土曜講座も9月に2回公開した。在校生保護者向けの公開授業は6月の平日に3日間実施した。その結果、職員についても授業見学の機会を増やすことが出来た。</p> <p>ウ ・生徒及び教員のICT機器の授業活用は十分浸透した。第1学年を担当する教員は、SSH基礎講座において、必ずロイロノートを利用するため、情報関係の知識やスキルの向上につながっている。年度進行により全体のICT活用レベルの向上が見られる。</p>

課 題	<p>ア ・NES回線の遅延やPC性能の低さによる業務の進行が滞る場面が多発している。直ちに改善し、教員の仕事がスムーズに進むICT機器の整備を強く望む。</p> <p>・上記事項は、教職員の仕事に対するストレスにもつながり、且つ、生徒とのオンライン接続についても問題が生じる。</p> <p>イ 生徒による授業評価アンケートの結果のフィードバック方法について検討が必要である。</p> <p>ウ SSH認定枠の実施に係る校内組織の整備と自走化に向けた経費獲得の準備が必要である。</p>	<p>ア ・NES回線の遅延やPC性能の低さによる業務の進行が滞る場面が多発している。令和7年度7月末にPCの更新があるとのこと。それを待っている状況である。</p> <p>・物価高騰等の影響を受け、BYOD端末の生徒個人負担の増大について危惧している。</p> <p>イ 生徒による授業評価アンケートの結果のフィードバック方法について管理職と教務部で協議継続中である。</p> <p>ウ SSH認定枠の実施に係る校内組織の改編を考える必要がある。</p>
--------	--	--

## 6 防災対策について

### (1) 令和5年度

ア 危機管理マニュアルを改訂し、新校舎完成に伴う災害時の避難方法の変更を行った。

イ 年2回の防災訓練を実施した。

(ア)第1回 4月、地区別集会で緊急防災カードへの記入(緊急時の家族との連絡方法、居住地域での避難場所)を徹底させた。

(イ)第2回 9月、津波避難訓練を実施した。津波警報発令時は、校舎3階より上に避難することとし、実践的な行動訓練を行うことで、発災時の命を守る行動について確認した。

ウ 11月22日(水) 防災教育推進のための連絡会議(静岡市清水区防災担当2人、各周辺自治会長12人、清水東高校関係職員12人参加)

(ア)本校の防災教育の取組について説明

(イ)清水区地域総務課より防災についての講演

「災害派遣からの教訓」～実践的な避難所運営～

(ウ)辻地区連合自治会長から

(エ)本校と地域との関係(一次避難地、広域避難地、避難所、救護所、津波避難ビル)を確認し、学校・市・自治会の役割を整理した。

### (2) 令和6年度

ア 前年度(R5)の学校危機管理マニュアル実地確認を受け、危機管理マニュアルの検討を行った。

イ 年2回の防災訓練を実施した。

(ア)第1回 4月、地区別集会で緊急防災カードへの記入(緊急時の家族との連絡方法、居住地域での避難場所)を徹底させた。

(イ)第2回 9月、津波避難訓練を実施した。津波警報発令時は、校舎3階より上に避難することとし、実践的な行動訓練を行うことで、発災時の命を守る行動について確認した。

ウ 11月13日(水) 防災教育推進のための連絡会議(静岡市清水区防災担当2人、各周辺自治会長10人、清水東高校関係職員13人参加)

(ア)本校の防災教育の取組について説明

(イ)清水区地域総務課から

(ウ)辻地区連合自治会長から

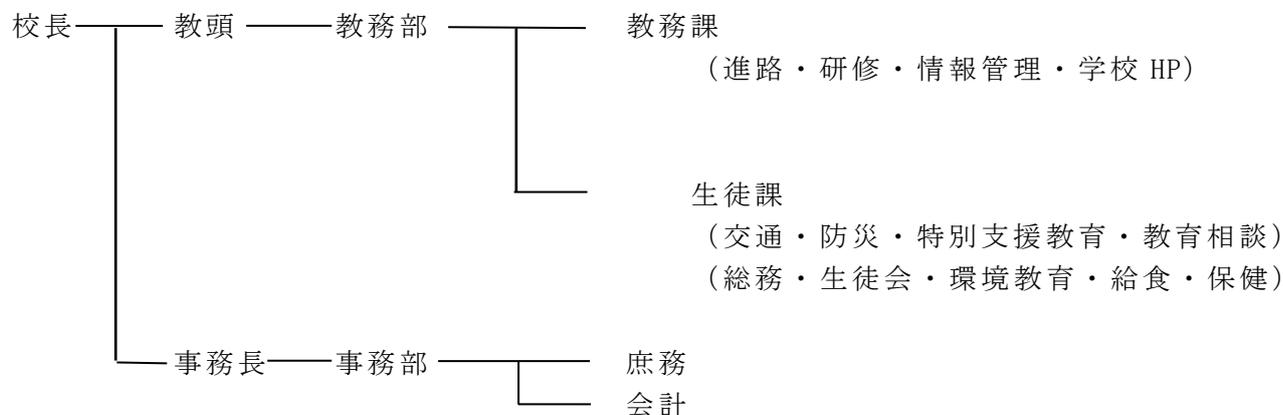
(エ)本校と地域との関係(一次避難地、広域避難地、避難所、救護所、津波避難ビル)を確認し、学校・市・自治会の役割を整理した。

## 【定時制】

### 1 概況

#### (1) 学校の沿革 全日制参照

#### (2) 組織図



### 2 目指す学校像

#### (1) 教育目標

「金剛の意志」を持つ、知・徳・体を兼ね備えた人格の育成を目指す。

#### スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
主体的に考え、判断し、自律的な行動がとれる。 地域社会から信頼され、未来の担い手として貢献できる。	少人数制でわかる授業を追求し、基礎力の定着と向上を図る。 個の状況に応じた修業年数の選択と多彩な科目選択を開設	学び直しの意思と、自ら成長したいという強い気持ちがある。 意欲的に他者と関わり、社会に必要なコミュニケーションスキルを身につける姿勢

#### スクールミッション

静岡市清水区の伝統ある定時制高校として、生徒の多様なニーズに応えるために、個のライフスタイルに応じた柔軟なカリキュラムを通し、時代の変化を生き抜く基礎力と自他理解力を養い、将来、地域社会の力となり、その発展に貢献できる人材の育成を目指す。

#### (2) スクールポリシー具現化の柱

- ア 安心安全な学校を作る。
- イ 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育成する。
- ウ 基礎学力の定着、向上を目指す。
- エ 授業力の向上と新たな評価の定着を図る。
- オ 健康で健全な心身を育成する。
- カ 生徒の適性にあった進路希望の実現を図る。
- キ 「働き方改革」を推進する。
- ク 確実に効果的な学校事務執行を推進する。

### 3 監査対象機関の年度別学校経営の取組等

#### (1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶	A	いじめや巡回中の問題行動はなく、生徒も安心して学校生活を送れている事がアンケート結果から分かった。 次年度も、生徒にとって、安心・安全な学校づくりを続けていきたい。
	登下校及び学校生活中における事故防止	A	体育のバスケットボール中に怪我が1件あったが、大きな事故はなく、事故防止に努めることができた。
	防災対策の充実	B	防災訓練の大切さは実感しているものの非常時の備えや地域防災訓練の参加率については、満足 of いく結果ではなかった。次年度は非常時の準備について具体的に学ぶ機会を設定していきたい。
イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる	A	アンケート結果からも挨拶や言葉遣いについて、取り組んでいる事がわかる。これも日ごろからの先生方の声掛けと丁寧な対応によるものである。ただ、時々行う事ができたいという回答が15%弱であったため、次年度はより肯定的な回答が増えるよう取り組みを続けたい。
	ソーシャルスキルの育成	A	自分の気持ち伝えたり、相手の気持ちを察したりといったソーシャルスキルの育成について1学期は自分の気持ち全く伝える事ができないと回答した生徒がいたが、2学期のアンケートでは全員が肯定的な回答をしていた。生徒が安心して自分の気持ちを表現できる環境づくりを次年度も続けていきたい。
	自己肯定感を高める	B	自分の強みを3つ以上答えられた生徒については、目標値をクリアする事はできなかったが、昨年度から自分は成長したと感じている生徒は90%弱であった。次年度以降も継続して支援を行い、全ての生徒が自分は成長したと実感できるように継続して支援を行っていきたい。
	欠席、遅刻を減らす	B	皆勤者・精勤者は全体の40%であった。欠席したり、遅刻したりする生徒は限られている。しかし、該当生徒は連日欠席や遅刻を繰り返している。保護者と連携をとって生徒の行動の改善に努めているが、保護者自身も対応に困っているケースが少なくなかった。次年度以降も家庭連携し根柢強い指導を続けていきたい。
	教職員間及び教員と家庭との連携充実	A	教員間及び教員と家庭との連携は必要十分に行っていた。必要に応じて39メールの配信を行ったが、登録してあるメールアドレスの個人が特定できないため次年度からは全日制と合わせてC-learningを利用していきたい。

	法律及び校内ルールの遵守の徹底	A	問題行動による生徒指導が1件起きてしまったが、該当生徒は指導後前向きに学校生活を送るようになった。生徒がより良い方向に進むような支援を今後も継続していきたい。
ウ	小中学校の学習の学び直し	A	高等学校の学習内容が定着するように生徒の実態に合わせて学習内容を精選して授業を行うことができた。その結果授業内容が全く理解できないと答えた生徒は0%であった。生徒もやればできるという経験をするため、学期が進むごとに学習に前向きに取り組んで聞く生徒の割合が増えていった。この取り組みは次年度も継続していきたい。
	多様性に対応した個別最適な学びの実践	A	本年度から一人一台のタブレットを貸与することができた。それらを利用して、毎日の健康観察や授業の資料の配布、小テストの実施、英作文の作成などを行うことができた。次年度以降もこれらの取り組みを継続していきたい。
エ	授業力の向上	A	全ての若手教員が学期に2回以上の授業参観を行った。各若手教員が目標設定をして授業力の向上に努めた。具体的には、生徒の現状に合わせた授業の展開、ICTを活用した授業デザインの構築、アクティブラーニング型授業実践などが行えるようになった。
	観点別評価の実践	B	評価基準の設定などで課題感を感じながら試行錯誤しながら取り組んだ1年であった。公平・公正な評価が行えるように取り組みを継続していきたい。
オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化	A	定期的にスクールカウンセラーと面談をする環境がある事は生徒のメンタルサポートの助けになっている事がアンケート結果から見て取れた。次年度以降もこの取り組みを継続したい。
カ	キャリア教育の充実	B	講演会を開くことは生徒がキャリア形成について考える良い機会になっており、この取り組みは次年度以降も継続・発展させていきたい。授業の中にキャリア教育を取り入れた教員が多くなかったため、次年度はキャリア教育について研修の機会を設けたい。
キ	休暇取得の推進	A	業務の効率化が図られた結果、夏季休業取得率、年休取得率ともに目標値をクリアすることができた。
	退勤時間の厳守	A	職員室完全退出の時刻は概ね守られていた。そのため、月間の超過勤務時間の平均値の目標値をクリアすることができた。

	業務の削減及び見直しの推進	A	GoogleWorkSpaceを活用して、事務処理の効率化を測った。 生徒会誌の構成を業者に委託した。体育大会の準備の工夫をするなどして業務の効率を行った。
ク	事務室運営の効率化	B	担当者発案による業務改善を進めることができた。
	法令順守の徹底	B	物品要求書提出の徹底により、事業仕分けによる会計処理を推進できたと考える。 学校徴収金会計の適正処理が行われ、すみやかな返金処理ができています。 物品等の値上げ等により、来年度の給食費・修学旅行積立等（受益者負担会計）の徴収額増加が見込まれる。費用対効果等により執行見直しするなどし、これ以上の徴収額の抑制を検討する必要がある。 適正に管理できていることから、これを維持していく。
	安全安心な教育環境の維持	B	解体工事及びその跡地整備は、令和6年10月には終了予定である。 跡地は、グラウンドとなるが防球ネット等付帯施設は今回の工事に含まれていないので、今後も県教委に整備をお願いする必要がある。

(2) 令和6年度 of 取組目標・達成方法・成果目標（重点目標は**ゴシック体**で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	<b>いじめの根絶</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な巡回及び声掛け</li> <li>SNS使用におけるマナー指導</li> <li>アンケートの実施及び聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの件数0件</li> <li>巡回時の生徒指導0件</li> <li>ネットパトロールからの指摘0件</li> <li>学校は安心して生活する事ができる場所だと感じている生徒・教員100%</li> </ul>
	登下校及び学校生活中における事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な巡回及び声掛け</li> <li>登下校時の指導</li> <li>交通安全教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内での事故0件</li> <li>登下校時の交通事故0件</li> </ul>
	防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練の年2回実施</li> <li>メール配信サービスの活用</li> <li>防災用品の点検と計画的な購入及び訓練時の活用</li> <li>地域の防災訓練への参加</li> <li>アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災訓練は大切である。」と答える生徒90%以上</li> <li>「家庭で非常時の準備をしている。」と答える生徒70%以上</li> <li>地域の防災訓練参加率50%以上</li> </ul>

イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な対話からの指導</li> <li>・始業終業の挨拶の徹底</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら挨拶することができる。」と答える生徒90%以上</li> <li>・「誰にでも丁寧な言葉遣いができる。」と答える生徒90%以上</li> </ul>
	ソーシャルスキルの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座、講演等の実施</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた。」と答える生徒80%以上</li> </ul>
	自己肯定感を高める。 自己の成長を実感できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業の実践</li> <li>・発達モデルの視点からの生徒の見取りと声掛け</li> <li>・日常的に肯定的な声掛け</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の強み(良き)を3つ以上答えられる生徒70%以上</li> <li>・「自分は成長した。」と答える生徒80%以上</li> <li>・「生徒ができるようになった事に注目して声掛けができた。」と答える教員80%以上</li> </ul>
	欠席、遅刻を減らす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な声掛け</li> <li>・定期的な面談実施</li> <li>・遅刻、欠席の連絡の徹底指導</li> <li>・保護者との連携強化</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の出席率95%以上</li> <li>・毎日の遅刻平均3人以内</li> <li>・寝坊による遅刻、月間10件以内</li> </ul>
	教職員間及び家庭との連携充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間の情報共有</li> <li>・生徒の生活状況を家庭へ連絡</li> <li>・公式SNSの活用</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報共有ができた。」と答える教職員100%</li> <li>・「必要な際に、生徒及び家庭と情報共有できた。」と答える教員90%以上</li> <li>・行事等の記事を1週間以内にSNSに投稿する。</li> </ul>
	法律及び校内ルールの遵守の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢引き下げと違反事項の年齢確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導0件</li> </ul>
ウ	多様性に対応した個別最適な学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の情報収集及び外部機関との連携</li> <li>・授業内容の精選及び授業方法の工夫</li> <li>・数学ⅠはTTによる指導を実施</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静岡県発達障害者支援センター「きらり」との連携が有用だった。」と答える教員100%</li> <li>・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員100%</li> <li>・「中学校時より学力が向上した。」と答える1年生100%</li> <li>・「TTにより、理解が深まった」と答える生徒100%</li> <li>・「授業内業が全く理解できない。」と答える生徒0%</li> </ul>

エ	校務や授業への一人一台端末や学習系クラウドサービスの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末及び学習系クラウドサービス活用例の共有</li> <li>校内研修の実施</li> <li>アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「校務や授業で一人一台端末を活用することができた。」と答える教員100%</li> <li>研修などで学んだことを業務や授業に取り入れた教員100%</li> <li>「一人一台端末を活用することにより、学力が向上した。」と答える生徒80%以上</li> </ul>
	観点別学習状況評価を基にした授業改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の精選及び授業方法の工夫</li> <li>学習集団に合わせた評価基準及び評価材料の見直し</li> <li>アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習評価を基に授業改善を行う事ができた。」と答える教員100%</li> <li>「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員100%</li> </ul>
オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に2～3回、計画的にSCを配置する。</li> <li>教職員とSCと定期的な意見交換及び共有</li> <li>アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SCを利用したことにより状況が改善した。」と答える生徒80%以上</li> <li>「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した。」と答える教職員80%以上</li> </ul>
カ	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的なSPI試験対策の実施</li> <li>各種講演会や説明会の充実（地元企業の講演会の実施）</li> <li>2年生以降へのアルバイトの励行</li> <li>アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった。」と答える生徒80%以上</li> <li>「自分の希望する進路が実現できた。」と答える卒業生100%</li> <li>「アルバイト等に就いている。」と答える2年生以上の生徒80%以上</li> </ul>
キ	休暇取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季休暇中に3日間、休暇取得日を設定する。</li> <li>計画的な年休取得の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季休暇取得率100%</li> <li>年休取得率60%以上</li> </ul>
	退勤時間の厳守	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常勤務日は、生徒は21時30分までに完全下校、教職員は22時までに退勤する。</li> <li>部活動活動日は、生徒は22時15分までに完全下校、教職員は22時30分までに退勤する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月間の超過勤務時間平均20時間未満</li> </ul>
	業務の削減及び見直しの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料のペーパーレス化</li> <li>各分掌業務の削減</li> <li>教職員各自の業務削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議資料のペーパーレス化100%</li> <li>学校経営計画を踏まえた各分掌の業務、1つ以上削減</li> <li>学校経営計画を踏まえた各教</li> </ul>

			職員の業務、1つ以上削減
ク	事務室運営の効率化	・効率的な事務処理を目指した業務改善を行う。	・各事務職員が1件以上の業務改善を提案
ケ	法令順守の徹底	・学校徴収金等事務処理基準に沿った業務処理の遵守 ・個人情報の適正な管理	・現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管により紛失及び漏洩事故ゼロ
	安全安心な教育環境の維持	・定期的な校内施設の点検 ・校舎改築工事は、学校運営と工事進捗の調和を図りながら、安全な教育環境を維持する。	・月2回以上の施設点検と法令点検指摘箇所すみやかな改修 ・的確な移転計画資料を作成する。 ・計画的な備品等の購入

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

##### (1) 令和5年度

取組概要	成果及び課題
外国人生徒みらいサポート事業を昨年度から継続した。	昨年度本事業を活用した2人が個別計画のもとで日本語支援を受けた。支援の甲斐があり、4年生の生徒は無事に進路を決定することができた。3年生の生徒についても、本事業に非常に前向きに取り組み次年度の活用を希望している。
静岡県立高等学校定時制生徒支援事業を継続実施した。	1年生の数学Ⅰの授業を、年間を通してティームティーチングで指導した。本年度は静岡市発達障害支援センター「きらり」の方にも本事業を活用した授業を見学してもらい、本事業の活用が支援を必要としている生徒に対して有効であると評価をいただいた。来年度は2年生の数学Ⅰの授業についても本事業を活用していきたい。
定時制教育振興会のサポートを受け、専属のスクールカウンセラーを配置した。	4月より週1回2時間程度で計画し、年間通して実施した。毎回予約が入る状況にあり、教職員に話せないことも話せるようで、アンケート結果においても、「気持ちが楽になった」と答えた生徒が大半を占めた。次年度もこの事業を継続していく。

##### (2) 令和6年度

取組概要	成果及び課題
静岡県立高等学校定時制生徒支援事業を継続実施した。	本年度から1年生、2年生の数学Ⅰの授業において本事業を活用したが、十分な時間数がもらえず、6月～10月までしか活用ができなかった。そのため、それ以降は清水東高校

	定時制教育振興会の予算を活用してチームティーチングを継続した。来年度は、非常勤講師とのチームティーチングを行い、1年間を通じて生徒を支援していきたい。
定時制教育振興会のサポートを受け、専属のスクールカウンセラーの配置を継続実施した。	4月より週1回2時間程度で計画し、年間通して実施した。スクールカウンセラーを利用したにより、状況が改善したと答えた生徒は100%であった。定期的にスクールカウンセラーと面談ができる環境にある事は生徒のメンタルサポートの助けになっているため、次年度も継続していく。
静岡市発達障害支援センター「きらり」の支援体制サポート強化事業（訪問型支援事業）を実施した。	4月、5月、9月、2月の4回の訪問型支援を受けた。4月の訪問で、合理的配慮が必要と思われる生徒について相談した。該当生徒について5月、9月、2月と授業参観と事例検討会を行い、適切な支援が行えているか「きらり」の方から助言をいただいた。「きらり」の方と一緒に支援を考える事で教員は自信をもって生徒に支援をすることができた。また、該当生徒は適切な支援を受けられることで、授業内容を十分に理解する事ができた。次年度も継続して実施をしていく。

## 5 教職員について

### (1) 令和6年度末異動状況

16 ページ参照

### (2) 現員数（令和7年4月1日現在）

17 ページ参照

### (3) 健康管理について

#### ア 令和5年度

- (ア) 夏季休暇は、全員休暇取得促進日に取得することができた。
- (イ) 日常的に介護休暇、家族休暇、年休の取りやすい環境、雰囲気を整えていることができ、年休取得率60%以上に達した。
- (ウ) 新型コロナウイルスが5類に移行した後もGoogleFormsを利用して毎日の健康観察を行うことができた。

#### イ 令和6年度

- (ア) 夏季休暇は、全員が夏季休業中に取得することができた。
- (イ) 日常的に介護休暇、家族休暇、年休の取りやすい環境、雰囲気を整えていることができ、年休取得率80%以上に達した。
- (ウ) GoogleFormsを利用して毎日の健康観察を行うことができた。

#### (4) 教職員の研修について

##### ア 令和5年度

テーマ
観点別評価の本格実施と、生徒の学習成果を的確に捉えた授業改善の推進。
研究内容
4月 研修① 本年度の研修テーマおよび評価基準の確認
5月 研修② 学習評価について（評価の目的について）
7月 研修③ 主体的に学習に取り組む態度の評価について
研修④ 主体的・対話的な深い学びの授業について（コンプライアンス研修）
10月 研修⑤ パフォーマンス課題と評価ルーブリックについて
12月 研修⑥ 定期訪問（研究授業・授業検討会の実施）
1月 研修⑦ 本年度の振り返り
成果と課題
振り返りアンケートの結果から、全ての教員が観点別学習状況評価を基に成績をつける事ができた。どう評価するのかについて試行錯誤を重ねた2年間であった。アンケート結果から、評価基準の設定や記録に残す材料の選定、主体的に学習に取り組む態度の評価について課題があることが分かった。

テーマ
一人一台端末と学習系クラウドサービスの活用について
研究内容
4月 研修① 本年度の研修テーマおよび評価基準の確認
研修② 教育情報セキュリティ研修
5月 研修③ 学習系クラウドサービスを活用したアンケートやテストについて
研修④ Kahootの活用事例について（コンプライアンス研修）
7月 研修⑤ 学習系クラウドサービスの活用について（GoogleFormsの活用）
ICTを活用した国語の授業について（資料提供）
研修⑥ Jambordの活用事例について（コンプライアンス研修）
9月 研修⑦ AIテキストマイニングの活用について（授業の振り返りへの活用）
10月 研修⑧ Chromeの活用について（便利なアドオンの紹介）
11月 研修⑨ 生成AIの活用について
12月 研修⑩ 定期訪問：研修（授業改善のためのICT活用）
1月 研修⑪ 本年度の振り返り成果と課題
成果と課題
本年度の振り返り結果から全ての教員が業務や授業においてICTを活用するとともに、生徒が活用する場面を設定している事がわかった。特にGoogleClassroomを活用した生徒への連絡や課題のやり取り、GoogleFormを活用したアンケートの集計などが積極的に行われていた。非常勤講師が使用する端末が不足しているため、取り残されている現状がある。

##### イ 令和6年度

テーマ
一人一台端末と学習系クラウドサービスの活用について
研究内容

- |     |     |                                     |
|-----|-----|-------------------------------------|
| 4月  | 研修① | 教育情報セキュリティ研修                        |
|     | 研修② | 学習系クラウドサービスの活用について（GoogleClassroom） |
| 5月  | 研修③ | C-learningの活用について                   |
| 6月  | 研修④ | 求人票管理システムの活用について（Handy）             |
|     | 研修⑤ | デジタル採点システム導入研修                      |
| 10月 | 研修⑥ | 生成AIの活用について（NoteBookLM）             |
| 11月 | 研修⑦ | 情報活用基礎研修について                        |
| 12月 | 研修⑧ | 学校ホームページの更新について                     |
| 1月  | 研修⑨ | 本年度の振り返り                            |

#### 成果と課題

本年度の振り返り結果から全ての教員が業務や授業においてICTを活用するとともに、生徒が活用する場面を設定することができた。昨年度は、GoogleWorkSpaceの活用をはじめのために、全体研修を複数回行ったが、本年度はGoogleWorkSpaceの活用が定着しているため、個別研修や他のICT活用についての研修を行うことができた。

## 6 防災対策について

### (1) 令和5年度

ア 避難訓練を2回実施した。1回目は、停電を想定し、校舎内を消灯した中で実施した。2回目は、津波を想定し垂直避難を実施した。

イ 台風による被害状況や学校からの連絡手段として、一斉メール（39メール）及びGoogleClassroomを活用した。

### (2) 令和6年度

ア 昨年同様、避難訓練を2回実施した。1回目は停電を想定し、各ホームルーム教室から、消灯した中での避難訓練を実施した。2回目は、移動教室で授業を受けている際の津波からの避難を想定し、管理棟4階への垂直避難を実施した。

イ 台風による被害状況や学校からの連絡手段として、GoogleClassroomを活用した。

## 7 学校開放について

令和5年度

利用種目	利用施設	期 間	利用日数	利用延べ人数	備考
硬式野球	運動場	通年夜間	12日	154人	公共料金 利用者負担電気料 年額 19,924円
サッカー	運動場	通年夜間 土日	120日	2,400人	公共料金 利用者負担電気料 年額 132,019円
ハンドボール	体育館	通年土日	40日	1,170人	公共料金 利用者負担電気料 年額 38,280円
学習支援	校舎 (教室)	通年土日	46日	15,995人	公共料金 利用者負担電気料等 年額 185,936円

令和6年度

(令和7年1月31日現在)

利用種目	利用施設	期 間	利用日数	利用延べ人数	備考
サッカー	運動場	通年夜間 土日	146日	6,330人	公共料金 利用者負担電気料 年額 90,394円
テニス	テニスコート	通年夜間 水	30日	280人	公共料金 利用者負担電気料 年額 14,304円
ハンドボール	体育館	通年日	34日	932人	公共料金 利用者負担電気料 年額 33,983円
学習支援	校舎 (教室)	通年土日	38日	14,792人	公共料金 利用者負担電気料等 年額 187,259円

余白

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関する事	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第53条、第55条、第56条、第57条、第59条、第60条、第61条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 いじめ防止対策推進法
2 学校の管理・運営に関する事	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 県立高等学校授業料口座振替事務取扱要領 静岡県手数料徴収条例 静岡県手数料徴収条例施行規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等就学支援金事務処理要領 静岡県公立高等学校等就学支援金事務処理要領 静岡県高等学校等奨学給付金事務処理要領 静岡県公立高等学校等学び直し支援金事務処理要領 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与実施要綱 高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱 夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律（第3条） 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律 個人情報の保護に関する法律

□□□□□

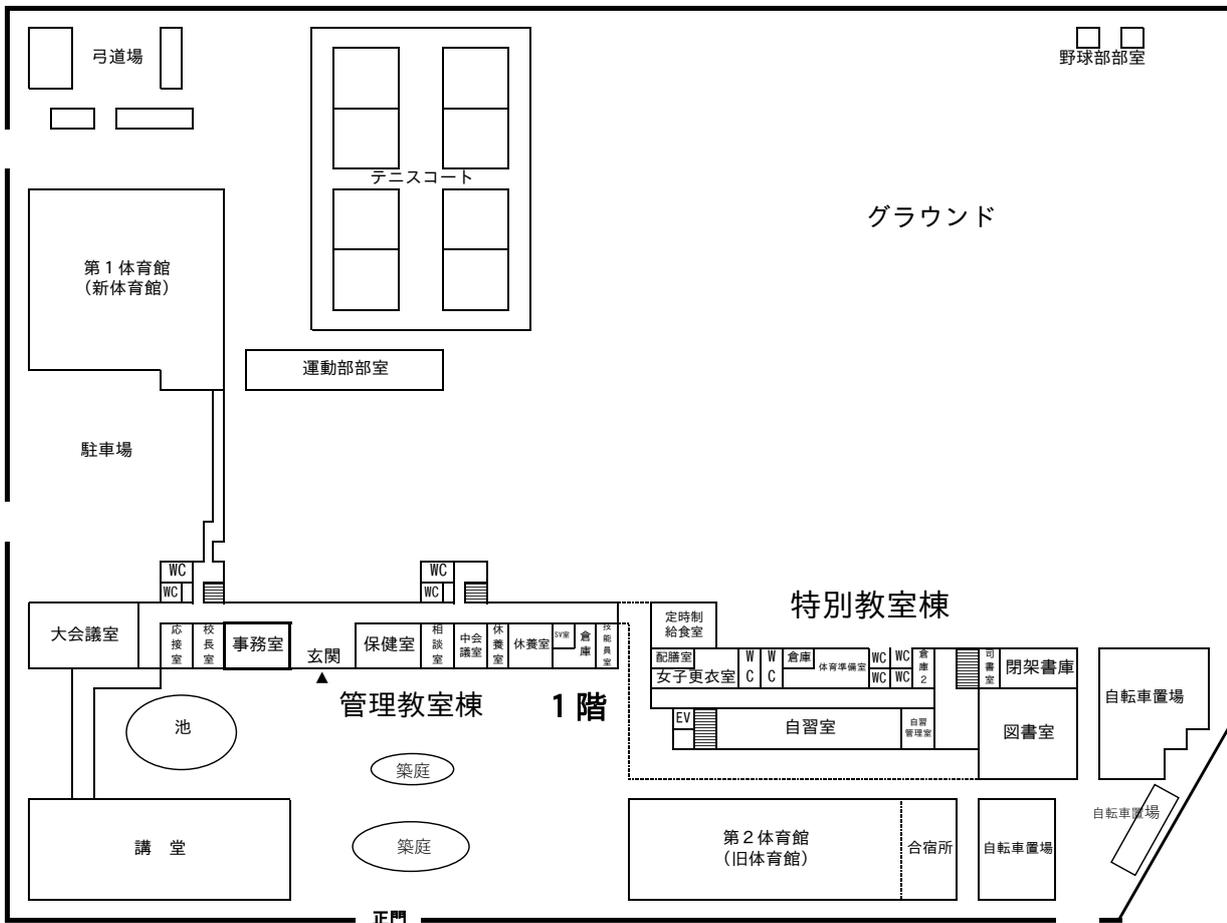
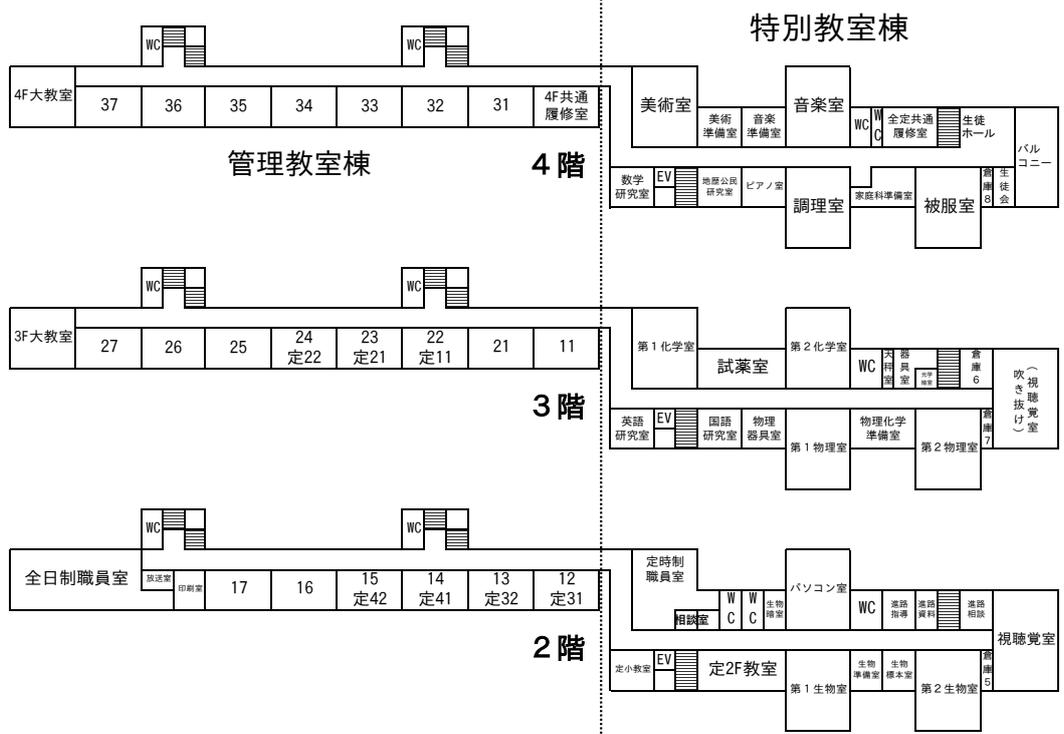
## 学 校 施 設 の 概 要

### 1 面積及び所有区分

(令和7年1月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	PTA有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	36,552.47	36,552.47					
内 訳	校 舎 敷 地	17,420.47	17,420.47				
	運 動 場 敷 地	19,132.00	19,132.00				
	そ の 他 の 敷 地						
	実 習 地						
内 訳	田						
	畑						
	茶 園						
	果 樹 園						
演 習 林							
校 舎	建 2,281.10	建 2,281.10					
	延 8,289.88	延 8,289.88					
体 育 館	建 2,367.19	建 2,367.19					
	延 2,585.77	延 2,585.77					
武 道 場	建 1,293.87				建 1,293.87		
	延 1,293.87				延 1,293.87		
そ の 他 の 建 物	建 1,803.53	建 1,650.54				建 152.99	
	延 2,744.76	延 2,591.77				延 152.99	
寄 宿 舎							
生 活 館							
プ ー ル							
職 員 住 宅	4戸	4戸					

2 配置・規模等  
(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	36,552.47㎡	8,289.88㎡	17,483.00㎡
県平均	45,574.48㎡	9,807.98㎡	22,506.84㎡

在 籍 生 徒 調

(令和7年1月31日現在)

学年	学科別 区分	全日制 普通科				全日制 理数科				(全日制 計)				定時制 普通科				(合 計)			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1年	入学者	240	130	116	246	40	29	11	40	280	159	127	286	40	7	6	13	320	166	133	299
	増加				0 0				0 0		0 0	0 0	0 0				0		0 0	0 0	
	減少		1	1	2 0				0 0		1 0	1 0	2 0				0 0		1 0	1 0	2 0
	現在		129	115	244		29	11	40		158	126	284		7	6	13		165	132	297
2年	入学者	240	125	118	243	40	25	16	41	280	150	134	284	40	7	5	12	320	157	139	296
	増加			1	1 0				0 0		0 0	1 0	1 0				0		0 0	1 0	1 0
	減少		3		3 0				0 0		3 0	0 0	3 0			1	1 0		3 0	1 0	4 0
	2年時当初		122	119	241		25	16	41		147	135	282		7	4	11		154	139	293
	増加			(1)	0 (1)				0 0		0 0	0 (1)	0 (1)				0 0		0 0	0 (1)	0 (1)
	減少			1	1 0		1		1 0		1 0	1 0	2 0				0 0		1 0	1 0	2 0
現在		122	119	241		24	16	40		146	135	281		7	4	11		153	139	292	
3年	入学者	240	121	122	243	40	25	16	41	280	146	138	284	40	7	3	10	320	153	141	294
	増加			1	1 0				0 0		0 0	1 0	1 0		1		0		1 0	1 0	1 0
	減少			4	4 0		1		1 0		1 0	4 0	5 0		1		1 0		2 0	4 0	6 0
	2年時当初		121	119	240		24	16	40		145	135	280		7	3	10		152	138	290
	増加			0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0		(1)		0 (1)		0 (1)	0 0	0 (1)
	減少		3	3 (1)	6 (1)			1	1 0		3 0	4 (1)	7 (1)		2		2 0		5 0	4 (1)	9 (1)
	3年時当初		118	115	233		24	15	39		142	130	272		6	3	9		148	133	281
	増加				0 0				0 0		0 0	0 0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0
減少			1	1 0				0 0		0 0	1 0	1 0		2		2 0		2 0	1 0	3 0	
現在		118	114	232		24	15	39		142	129	271		4	3	7		146	132	278	
4年	入学者				0				0	0	0	0	0	40	6	6	12	40	6	6	12
	増加				0 0				0 0		0 0	0 0	0 0		(1)		0 (1)		0 (1)	0 0	0 (1)
	減少				0 0				0 0		0 0	0 0	0 0		2	2	4 0		2 0	2 0	4 0
	2年時当初				0			0		0	0	0			5	4	9		5	4	9
	増加				0			0		0 0	0 0	0 0	0 0		(1)		0 (1)		0 (1)	0 0	0 (1)
	減少				0 0			0 0		0 0	0 0	0 0	0 0		1 (1)	1	2 (1)		1 (1)	1 0	2 (1)
	3年時当初				0			0		0	0	0			4	3	7		4	3	7
	増加				0 0			0 0		0 0	0 0	0 0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0
	減少				0 0			0 0		0 0	0 0	0 0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0
	3修卒				0 0			0 0		0 0	0 0	0 0	0 0		1	1	2		1 0	1 0	2 0
	4年時当初				0			0		0	0	0			3	2	5		3	2	5
	増加				0			0		0 0	0 0	0 0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0
減少				0 0			0 0		0 0	0 0	0 0	0 0				0 0		0 0	0 0	0 0	
現在		0	0	0		0	0	0		0	0	0		3	2	5		3	2	5	
合 計		720	369	348	717	120	77	42	119	840	446	390	836	160	21	15	36	1000	467	405	872

## 入学志願者及び入学者数調

(全日制)

区 分		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度	
学 科 別		普通	理数								
生徒定員(A)		240	40	240	40	240	40	240	40	240	40
募集者数(B)		240	40	240	40	240	40	240	40	240	40
志願者数	男	154 ( )	48 ( )	124 ( )	31 ( )	133 ( )	30 ( )	128 ( )	33 ( )	122 ( )	43 ( )
	女	116 ( )	18 ( )	122 ( )	23 ( )	120 ( )	17 ( )	121 ( )	15 ( )	139 ( )	14 ( )
	計 (C)	270 ( 0 )	66 ( 0 )	246 ( 0 )	54 ( 0 )	253 ( 0 )	47 ( 0 )	249 ( 0 )	48 ( 0 )	261 ( 0 )	57 ( 0 )
受検者数	男	153 ( )	48 ( )	124 ( )	31 ( )	133 ( )	29 ( )	128 ( )	33 ( )	121 ( )	42 ( )
	女	116 ( )	18 ( )	122 ( )	22 ( )	120 ( )	17 ( )	121 ( )	15 ( )	139 ( )	13 ( )
	計 (D)	269 ( 0 )	66 ( 0 )	246 ( 0 )	53 ( 0 )	253 ( 0 )	46 ( 0 )	249 ( 0 )	48 ( 0 )	260 ( 0 )	55 ( 0 )
合格者数	男	141 ( )	29 ( )	121 ( )	25 ( )	125 ( )	25 ( )	130 ( )	29 ( )	116 ( )	34 ( )
	女	105 ( )	12 ( )	122 ( )	16 ( )	118 ( )	16 ( )	116 ( )	11 ( )	134 ( )	8 ( )
	計 (E)	246 ( 0 )	41 ( 0 )	243 ( 0 )	41 ( 0 )	243 ( 0 )	41 ( 0 )	246 ( 0 )	40 ( 0 )	250 ( 0 )	42 ( 0 )
志願倍率 (C)/(B)		1.13	1.65	1.03	1.35	1.05	1.18	1.04	1.20	1.09	1.43
受検倍率 (D)/(B)		1.12	1.65	1.03	1.33	1.05	1.15	1.04	1.20	1.08	1.38
入学者数	男	141	29	121	25	125	25	130	29	116	34
	女	105	12	122	16	118	16	116	11	134	8
	計 (F)	246	41	243	41	243	41	246	40	250	42
充足率 (F)/(A)		1.03	1.03	1.01	1.03	1.01	1.03	1.03	1.00	1.04	1.05

## 入学志願者及び入学者数調

(定時制)

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 科 別		普通	普通	普通	普通	普通
生徒定員(A)		40	40	40	40	40
募集者数(B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	6 ( )	7 ( 1 )	9 ( 1 )	7 ( )	8 ( )
	女	5 ( 1 )	3 ( )	6 ( 1 )	6 ( )	7 ( 1 )
	計 (C)	11 ( 1 )	10 ( 1 )	15 ( 2 )	13 ( 0 )	15 ( 1 )
受検者数	男	6 ( )	7 ( 1 )	9 ( 1 )	7 ( )	8 ( )
	女	5 ( 1 )	3 ( )	6 ( )	6 ( )	7 ( 1 )
	計 (D)	11 ( 1 )	10 ( 1 )	15 ( 1 )	13 ( 0 )	15 ( 1 )
合格者数	男	6 ( )	6 ( 1 )	7 ( 1 )	7 ( )	8 ( )
	女	5 ( 1 )	3 ( )	5 ( )	6 ( )	7 ( 1 )
	計 (E)	11 ( 1 )	9 ( 1 )	12 ( 1 )	13 ( 0 )	15 ( 1 )
志願倍率 (C)/(B)		0.28	0.25	0.38	0.33	0.38
受検倍率 (D)/(B)		0.28	0.25	0.38	0.33	0.38
入学者数	男	6	7	7	7	8
	女	6	3	5	6	7
	計 (F)	12	10	12	13	15
充足率 (F)/(A)		0.30	0.25	0.30	0.33	0.38

□□□□□

(高等学校用)

## 卒業生の動向調

### 1 進路状況

(全日制)

学 科 別		普通科			理数科			(計)			
年 度		4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	
卒業生徒数		232	243	232	39	41	39	271	284	271	
内 訳	(進学志願者)	231	243	231	39	41	39	270	284	270	
	進 学 者	大学・短大	207	201	212	31	34	27	238	235	239
		専修・各種学校等	23	1	1	7	0	2	30	1	3
		小 計	230	202	212	38	34	29	268	236	241
	就職者	1	1	1	0	0	0	1	1	1	
	自営者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	進学準備者	1	40	19	1	7	10	2	47	29	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計		232	243	232	39	41	39	271	284	271	

(定時制)

学 科 別		普 通 科			
年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
卒業生徒数		24	10	8	
内 訳	(進学志願者)	5	2	1	
	進 学 者	大学・短大	3	0	0
		専修・各種学校等	4	2	0
		小 計	5	2	0
	就職者	11	6	5	
	自営者	0	0	0	
	進学準備者	0	0	1	
	その他	9	2	2	
合 計		24	10	8	

### 2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	4年度	5年度	6年度
就職希望者数	0	0	0
求 人 数	0	0	0
求人倍率	0	0	0

3 資格取得状況

(全日制)

(6年度)

学科別		理数科	普通科	計
卒業生徒数		39	232	271
資格の取得状況		0	0	0
合計		0	0	0

(定時制)

(6年度)

学科別		普通科	計
卒業生徒数		8	8
資格の取得状況		0	0
合計		0	0

□□□□□

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

#### (1) 出身地

(全日制) (令和7年1月31日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	富士市	焼津市	富士宮市	沼津市	藤枝市	その他	合計
生徒数	699	63	15	15	11	10	23	836
構成比%	83.6%	7.5%	1.8%	1.8%	1.3%	1.2%	2.8%	100%

(定時制) (令和7年1月31日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	沼津市	富士市	その他	合計
生徒数	35	1	0	0	36
構成比%	97.2%	2.8%	0%	0%	100%

#### (2) 通学方法

(全日制) (令和7年1月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	交通機関	その他	合計
生徒数	27	426	364	19	836
構成比%	3.2%	51.0%	43.5%	2.3%	100%

(定時制) (令和7年1月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	交通機関	その他	合計
生徒数	4	22	8	2	36
構成比%	11.1%	61.1%	22.2%	5.6%	100%

(定時制高校)

#### (3) 生徒の年齢 (令和7年1月31日現在) (単位:人)

区分	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	計
1年	2	11										13
2年		1	9				1					11
3年			2	4	1							7
4年					3	1				1		5
計	2	12	11	4	4	1	1			1		36

#### (4) 生徒の就業状況 (令和7年1月31日現在) (単位:人)

区分	建設	製造	卸小売	サービス業	各種学校	その他	無職	計
1年				6			7	13
2年			1	7			3	11
3年				7				7
4年			1	2		1	1	5
計			2	22		1	11	36

2 部（クラブ）の加入状況

（全日制）

（令和7年1月31日現在）（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		17	18		35
男子	1年	123	35		158
	2年	108	38		146
	3年	97	42	3	142
	計 (A)	328	115	3	446
	構成比	73.5%	25.8%	0.7%	100%
女子	1年	52	74		126
	2年	60	75		135
	3年	61	68		129
	計 (B)	173	217		390
	構成比	44.4%	55.6%	0%	100%
合計	(A+B)	501	332	3	836
	構成比	59.9%	39.7%	0.4%	100%

（定時制）

（令和6年1月31日現在）（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		3	3	0	
男子	1年	7	0	0	7
	2年	5	2	0	7
	3年	3	1	0	4
	4年	3	0	0	3
	計 (A)	18	3	0	21
	構成比	85.7%	14.3%	0%	100%
女子	1年	2	4	0	6
	2年	2	2	0	4
	3年	2	1	0	3
	4年	1	1	0	2
	計 (B)	7	8	0	15
	構成比	46.7%	53.3%	0%	100%
合計	(A+B)	25	11	0	36
	構成比	69.4%	30.6%	0%	100%

□□□□□

(全日制)

## 授 業 料 収

期 別	月 別	調 定 の 状 況								収 納 の 状 況			
		1 年		2 年		3 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未 済 額
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	収納率			
人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円		
一 期	4												
	5												
	6												
	7	106	3,148,200	96	2,851,200	106	3,148,200	308	9,147,600	8,999,100	98.4	0	148,500
	8											148,500	0
	計	106	3,148,200	96	2,851,200	106	3,148,200	308	9,147,600	8,999,100	98.4	148,500	0
二 期	7												
	8												
	9												
	10	101 1	4,999,500 9,900	98	4,851,000 ▲ 9,900	108	5,346,000	308	15,196,500	15,097,500	99.3	0	99,000
	11											99,000	0
	計	102	5,009,400	98	4,841,100	108	5,346,000	308	15,196,500	15,097,500	99.3	99,000	0
三 期	12												
	1	101	3,999,600	96 1	3,801,600 39,600 ▲ 19,800	106	4,197,600	304	12,018,600	11,860,200	98.7	0	158,400
	2											158,400	0
	3												
	計	101	3,999,600	97	3,821,400	106	4,197,600	304	12,018,600	11,860,200	98.7	158,400	0
合計	309	12,157,200	291	11,513,700	320	12,691,800	920	36,362,700	35,956,800	98.9	405,900	0	



□□□□□

(定時制)

## 授 業 料 収

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未済額
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率		
人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円		
一 期	4														
	5														
	6														
	7	3	24,300					2	16,200	5	40,500	32,400	80.0	0	8,100
	8													8,100	0
	計	3	24,300	0	0	0	0	2	16,200	5	40,500	32,400	80.0	8,100	0
二 期	7														
	8														
	9														
	10	2	27,000	1	13,500 ▲ 2,700			2	27,000	7	81,000	81,000	100.0	0	0
	11														
	計	2	27,000	1	10,800	0	0	4	43,200	7	81,000	81,000	100.0	0	0
三 期	12														
	1	2	21,600					2	21,600	5	54,000	54,000	100.0	0	0
	2							1	10,800						
	3														
	計	2	21,600	0	0	0	0	3	32,400	5	54,000	54,000	100.0	0	0
合計	7	72,900	1	10,800	0	0	9	91,800	17	175,500	167,400	95.4	8,100	0	

# 納 状 況 調

(令和5年度)

期 別	異 動 者 等 の 状 況	
一  期	A. 期首収納権利発生額 =	40,500 円
	1年: 3人 × 2,700円 × 3月 =	24,300 円
	2年: × 2,700円 × 3月 =	0 円
	3年: × 2,700円 × 3月 =	0 円
	4年: 2人 × 2,700円 × 3月 =	16,200 円
	B. 収納権利増減(▲)額 =	0 円
	C. 収納必要額 A(±)B =	40,500 円
二  期	A. 期首収納権利発生額 =	83,700 円
	1年: 2人 × 2,700円 × 5月 =	27,000 円
	2年: 1人 × 2,700円 × 5月 =	13,500 円
	3年: 人 × 2,700円 × 5月 =	0 円
	4年: 2人 × 2,700円 × 5月 =	27,000 円
	1人 × 2,700円 × 5月 =	13,500 円
	1人 × 2,700円 × 1月 =	2,700 円
	B. 収納権利増減(▲)額 =	2,700 円
	2年: 1人 × 2,700円 × 1月 =	2,700 円 (10/26退学者)
	C. 収納必要額 A(±)B =	81,000 円
三  期	A. 期首収納権利発生額 =	54,000 円
	1年: 2人 × 2,700円 × 4月 =	21,600 円
	2年: × 2,700円 × 4月 =	0 円
	3年: × 2,700円 × 4月 =	0 円
	4年: 2人 × 2,700円 × 4月 =	21,600 円
	1人 × 2,700円 × 4月 =	10,800 円
	B. 収納権利増減(▲)額 =	0 円
	C. 収納必要額 A(±)B =	54,000 円
	D. 収納必要額 =	175,500 円

□□□□□

(全日制)

## 授 業 料 収

期 別	月 別	調 定 の 状 況								収 納 の 状 況			
		1 年		2 年		3 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未 済 額
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	円	%		
一 期	4												
	5												
	6	1	19,800					1	19,800	19,800	100.0	0	0
	7	104	3,088,800	101	2,999,700	95	2,821,500	300	8,910,000	8,880,300	99.7	0	29,700
	8											29,700	0
	計	105	3,108,600	101	2,999,700	95	2,821,500	301	8,929,800	8,900,100	99.7	29,700	0
二 期	7												
	8												
	9												
	10	111	5,494,500	101 1	4,999,500 49,500	101	4,999,500	314	15,543,000	15,543,000	100.0	0	0
	11												
	12												
	計	111	5,494,500	102	5,049,000	101	4,999,500	314	15,543,000	15,543,000	100.0	0	0
三 期	12												
	1	111	4,395,600	100 1	3,960,000 39,600 ▲ 19,800	101	3,999,600	313	12,375,000	12,216,600	98.7	0	158,400
	2											158,400	0
	3												
	計	111	4,395,600	101	3,979,800	101	3,999,600	313	12,375,000	12,216,600	98.7	158,400	0
合計	327	12,998,700	304	12,028,500	297	11,820,600	928	36,847,800	36,659,700	99.5	188,100	0	

納 状 況 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日)

期 別	異 動 者 等 の 状 況
一  期	<p>A. 期首収納権利発生額 = 8,929,800 円</p> <p style="padding-left: 40px;">1年: 1人 × 9,900円 × 2月 = 19,800 円 (5/31転学者分)</p> <p style="padding-left: 40px;">104人 × 9,900円 × 3月 = 3,088,800 円</p> <p style="padding-left: 40px;">2年: 101人 × 9,900円 × 3月 = 2,999,700 円</p> <p style="padding-left: 40px;">3年: 95人 × 9,900円 × 3月 = 2,821,500 円</p> <p>B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円</p> <p>C. 収納必要額 A(±)B = 8,929,800 円</p>
二  期	<p>A. 期首収納権利発生額 = 15,543,000 円</p> <p style="padding-left: 40px;">1年: 111人 × 9,900円 × 5月 = 5,494,500 円</p> <p style="padding-left: 40px;">2年: 101人 × 9,900円 × 5月 = 4,999,500 円</p> <p style="padding-left: 40px;">1人 × 9,900円 × 5月 = 49,500 円</p> <p style="padding-left: 40px;">3年: 101人 × 9,900円 × 5月 = 4,999,500 円</p> <p>B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円</p> <p>C. 収納必要額 A(±)B = 15,543,000 円</p>
三  期	<p>A. 期首収納権利発生額 = 12,394,800 円</p> <p style="padding-left: 40px;">1年: 111人 × 9,900円 × 4月 = 4,395,600 円</p> <p style="padding-left: 40px;">2年: 100人 × 9,900円 × 4月 = 3,960,000 円</p> <p style="padding-left: 40px;">1人 × 9,900円 × 4月 = 39,600 円</p> <p style="padding-left: 40px;">3年: 101人 × 9,900円 × 4月 = 3,999,600 円</p> <p>B. 収納権利増減(▲)額 = 19,800 円</p> <p style="padding-left: 40px;">2年: 1人 × 9,900円 × 2月 = 19,800 円 (1/21退学者分)</p> <p>C. 収納必要額 A(±)B = 12,375,000 円</p>
	<p>D. 収納必要額 = 36,847,800 円</p>

□□□□□

(定時制)

## 授 業 料 収

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未済額
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率		
人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円		
一 期	4														
	5														
	6														
	7			2	16,200			1	8,100	3	24,300	24,300	100.0	0	0
	8														
	計	0	0	2	16,200	0	0	1	8,100	3	24,300	24,300	100.0	0	0
二 期	7														
	8														
	9														
	10			1 1	13,500 10,800			1	13,500	3	37,800	37,800	100.0	0	0
	11			▲ 1	▲ 10,800					▲ 1	▲ 10,800	▲ 10,800			
	計	0	0	1	13,500	0	0	1	13,500	2	27,000	27,000	100.0	0	0
三 期	12														
	1			1	10,800			1	10,800	2	21,600	21,600	100.0	0	0
	2														
	3														
	計	0	0	1	10,800	0	0	1	10,800	2	21,600	21,600	100.0	0	0
合計	0	0	4	40,500	0	0	3	32,400	7	72,900	72,900	100.0	0	0	

納 状 況 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日)

期 別	異 動 者 等 の 状 況	
一   期	A. 期首収納権利発生額 = 24,300 円 1年: × 2,700円 × 3月 = 0 円 2年: 2人 × 2,700円 × 3月 = 16,200 円 3年: × 2,700円 × 3月 = 0 円 4年: 1人 × 2,700円 × 3月 = 8,100 円	
	B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円	
	C. 収納必要額 A(±)B = 24,300 円	
二   期	A. 期首収納権利発生額 = 37,800 円 1年: × 2,700円 × 5月 = 0 円 2年: 1人 × 2,700円 × 5月 = 13,500 円 1人 × 2,700円 × 4月 = 10,800 円 (認定保留者分 8~11月) 3年: 人 × 2,700円 × 5月 = 0 円 4年: 1人 × 2,700円 × 5月 = 13,500 円	
	B. 収納権利増減(▲)額 = 10,800 円 2年: 1人 × 2,700円 × 4月 = 10,800 円 (11/7認定者分 8~11月)	
	C. 収納必要額 A(±)B = 27,000 円	
三   期	A. 期首収納権利発生額 = 21,600 円 1年: × 2,700円 × 4月 = 0 円 2年: 1人 × 2,700円 × 4月 = 10,800 円 3年: × 2,700円 × 4月 = 0 円 4年: 1人 × 2,700円 × 4月 = 10,800 円	
	B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円	
	C. 収納必要額 A(±)B = 21,600 円	
	D. 収納必要額 = 72,900 円	

□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和5年度	令和7年1月31日現在
	件 数	件 数
入学検定料（全日制）	297	0
入学検定料（定時制）	13	0

□□□□□

預 金 調

(令和7年1月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高円	摘要
清水銀行 本店営業部	無利息型普通預金	□□□□□	静岡県立清水東高等学校 資金前渡者 井島 秀樹	0	給与
清水銀行 辻支店	無利息型普通預金	□□□□□	(自振口)清水東 資金前渡者 井島 秀樹	0	光熱水費 電話代
残高合計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年1月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和5年度						令和6年度						摘要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵便	320円券	6	1,920	0	0	1	320	5	1,600	0	0	0	0	5	1,600	通信事務
	120円券	9	1,080	0	0	3	360	6	720	0	0	0	0	6	720	通信事務
	84円券	8	672	0	0	4	336	4	336	0	0	1	84	3	252	通信事務
	50円券	6	300	0	0	0	0	6	300	0	0	0	0	6	300	通信事務
	10円券	7	70	0	0	7	70	0	0	0	0	0	0	0	0	通信事務
	50円はがき	54	2,700	0	0	0	0	54	2,700	0	0	0	0	54	2,700	通信事務
計			6,742		0		1,086		5,656		0		84		5,572	

□□□□□

### 委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						左のうち、4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	11教育費	02教育委員会費	03教育管理費	3,617,246	
	一般	11教育費	05高等学校費	02高等学校管理費	4,519,042	
	一般	11教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	525,008	
	一般	11教育費	08学校教育費	04健康体育費	1,189,430	
計					9,850,726	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般	11教育費	05高等学校費	02高等学校管理費	427,680	427,680
計					427,680	427,680
(18) 負担金、 補助金及 び交付金	一般	11教育費	05高等学校費	02高等学校管理費	65,931,525	
	一般	11教育費	08学校教育費	01高校教育費	181,030	
	一般	11教育費	08学校教育費	04健康体育費	94,770	
計					66,207,325	0
(21) 補償、補 填及び賠 償金						
計					0	0

□□□□□

## 委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年1月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	11教育費	02教育委員会費	03教育管理費	2,026,156	
	一般	11教育費	05高等学校費	02高等学校管理費	2,306,414	
	一般	11教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	365,838	
	一般	11教育費	08学校教育費	01高校教育費	1,368,400	
	一般	11教育費	08学校教育費	04健康体育費	1,022,560	
計					7,089,368	0
(14) 工事 請負費	一般	11教育費	02教育委員会費	03教育管理費	2,398,000	
計					2,398,000	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般	11教育費	08学校教育費	01高校教育費	438,350	
計					438,350	0
(18) 負担金、 補助金及 び交付金	一般	11教育費	02教育委員会費	03教育管理費	1,500	
	一般	11教育費	05高等学校費	02高等学校管理費	64,497,100	
	一般	11教育費	08学校教育費	04健康体育費	0	
計					64,498,600	0
(21) 補償、補 填及び賠 償金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和5年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	静岡県立清水東高等学校外3校警備業務委託	総合警備保障(株)静岡支社	13,408,890	(6,567,000)	1,313,400	(6,567,000)	一般	元.10.1 ∩ 6.9.30	5.5.31	(累計4,596,900)	機械警備	元長期清水東清水南清水西清水特支
									5.6.30	109,450		
									5.7.31	109,450		
									5.8.31	109,450		
									5.9.29	109,450		
									5.10.31	109,450		
									5.11.30	109,450		
									5.12.25	109,450		
									6.1.31	109,450		
									6.2.29	109,450		
6.3.29	109,450											
6.4.26	109,450											
									(小計1,313,400)			
2	夜間定時制高等学校校舎等管理業務委託	静岡ビルサービズ(株)	915,750	日額 4,290円	日額 4,290円	随契	5.4.10 ∩ 6.3.31	5.5.31	64,350	校舎管理業務	随契1号(少額)	
								5.6.30	85,800			
								5.7.31	85,800			
								5.8.31	60,060			
								5.10.31	85,800			
								5.11.30	90,090			
								5.12.25	85,800			
								6.1.31	68,640			
								6.2.29	64,350			
								6.3.29	81,510			
6.4.19	21,450											
									(小計793,650)			
3	静岡県立清水東高等学校外3校消防設備等保守点検業務委託	(有)コーセイ産業	5,765,100	2,273,128	△ 13,204	2,259,924	一般	5.4.1	1,471,584	消防設備の保守管理	清水東清水南清水西清水特支	
								∩				
								6.3.31				788,340
									(小計2,259,924)			
4	給食調理(配膳)業務委託	(株)ユアーズ静岡	1,220,648	配膳7,370円 衛生管理2,970円 連絡調整(4月)11,220円	配膳7,370円 衛生管理2,970円 連絡調整(4月)11,220円	一般	5.4.1 ∩ 6.2.29	5.5.31	120,340	給食配膳業務		
								5.6.30	131,230			
								5.7.31	153,340			
								5.8.31	57,530			
								5.9.29	5,940			
								5.10.31	138,600			
								5.11.30	138,600			
								5.12.25	153,340			
								6.1.31	72,270			
								6.2.29	109,120			
6.3.29	109,120											
									(小計1,189,430)			
5	建築物環境衛生管理業務委託	静岡ビルサービズ(株)	1,775,400	715,000	715,000	一般	5.4.1	118,250	232,650	建築物の環境衛生管理業務		
							∩					
							6.3.31					226,050
							5.7.31					138,050
							6.4.26					138,050
									(小計715,000)			
6	エレベーター保守点検業務委託	フジテック(株)静岡支店	737,548	498,960	498,960	随契	5.7.1 ∩ 6.3.31	5.8.31	55,440	エレベーター保守点検業務	随契1号(単独)	
								5.9.29	55,440			
								5.10.31	55,440			
								5.11.30	55,440			
								5.12.25	55,440			
								6.1.31	55,440			
								6.2.29	55,440			
								6.3.29	55,440			
6.4.22	55,440											
									(小計498,960)			

7	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務委託	㈱総合美装ワタナベ	881,650	771,210		771,210	随契	5.7.27 ～ 5.9.20	5.8.15	771,210 (小計771,210)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務委託	㈱トゥースリー	825,000	825,000		825,000	随契	5.8.1 ～ 5.9.29	5.9.15	825,000 (小計825,000)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
9	産業廃棄物(ホルマリン漬け標本)収集・運搬業務委託	日本産業廃棄物処理(株)	523,297	466,262		466,262	随契	5.7.27 ～ 5.9.29	5.9.29	466,262 (小計466,262)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
10	産業廃棄物(ホルマリン漬け標本)処分業務委託	三光(株)	88,852	88,852		88,852	随契	5.7.27 ～ 5.11.30	5.10.31	88,852 (小計88,852)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
11	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務委託	㈱総合美装ワタナベ	124,630	124,630		124,630	随契	5.11.9 ～ 5.12.27	5.12.19	124,630 (小計124,630)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
12	産業廃棄物(水銀含有物)収集・運搬業務委託	日本産業廃棄物処理(株)	402,204	402,204		402,204	随契	6.1.10 ～ 6.3.29	6.3.1	402,204 (小計402,204)	不燃物 処分	随契 1号 (少額)
13	産業廃棄物(水銀含有物)処分業務委託	J&T環境(株)	402,204	402,204		402,204	随契	6.1.10 ～ 6.3.29	6.3.1	402,204 (小計402,204)	不燃物 処分	随契 1号 (単独)
	事務関係 計	13件	27,071,173	7,880,850	△ 13,204	7,867,646				9,850,726		
	(工事関係)											
	工事関係 計	0件										
	合計	13件	27,071,173	7,880,850	△ 13,204	7,867,646				9,850,726		

委託料に関する調

(令和5年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計 金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金額	委託 業務 の 内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	可燃物収 集運搬処 理業務	丸徳商事 (有)	/	1回あたり 18,700 円 1Kgあたり 11円		1回あたり 18,700 円 1Kgあたり 11円	/	5.4.7 ～ 6.3.29	/	/	産廃 (可燃物) 処理	清水西 単価契約
参考 2	自家用電 気工作物 保安全管理 業務	静岡ビル 保善 (株)	/	1,912,900		1,912,900	/	5.4.1 ～ 6.3.31	/	/	電気工作 物の保守 点検	清水南
参考 3	建築基準 法第12条 に基づく 定期点検 業務	(有)コー セイ産業	/	1,424,720		1,424,720	/	5.9.1 ～ 6.2.29	/	/	建物・設 備の定期 点検	清水南
参考 4	ガスヒー トポンプ 点検業務	(株)ユ アーズ静 岡	/	2,145,000	△ 10,846	2,134,154	/	5.5.24 ～ 6.3.31	/	/	GHPの 点検及び 調整	静岡
	計	4件		5,482,620	△ 10,846	5,471,774						

委託料に関する調

(令和6年度)  
(令和7年1月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	静岡県立清水東高等学校外3校警備業務委託	総合警備保障(株)静岡支社	13,408,890	(6,567,000)		(6,567,000)	一般	元.10.1 } 6.9.30	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.20 6.10.31	(累計5,910,300) 109,450 109,450 109,450 109,450 109,450 109,450 (小計656,700)	機械警備	元長期 清水東 清水南 清水西 清水特支
2	夜間定時制高等学校校舎等管理業務委託	静岡ビルサービズ(株)	915,750	日額 4,400円		日額 4,400円	随契	6.4.9 } 7.3.31	6.5.31 6.6.25 6.7.19 6.8.21 6.10.22 6.11.29 6.12.24 7.1.24	66,000 83,600 83,600 70,400 83,600 96,800 88,000 74,800 (小計646,800)	校舎管理業務	随契 1号 (少額)
3	静岡県立清水東高等学校外3校消防設備等保守点検業務委託	(有)コーセイ産業	5,736,412	2,298,824		2,298,824	一般	6.4.1 } 7.3.31	6.11.29	1,518,748  (小計1,518,748)	消防設備の保安管理	清水東 清水南 清水西 清水特支
4	給食調理(配膳)業務委託	(株)ユアーズ静岡	1,278,750	配膳 8,030円 衛生管理 1,650円 連絡調整(4月) 13,200円		配膳 8,030円 衛生管理 1,650円 連絡調整(4月) 13,200円	一般	6.4.1 } 7.2.28	6.5.22 6.6.20 6.7.22 6.8.21 6.9.20 6.10.18 6.11.29 6.12.17 7.1.20	128,920 123,750 155,870 75,570 3,300 139,810 147,840 163,900 83,600 (小計1,022,560)	給食配膳業務	
5	建築物環境衛生管理業務委託	静岡ビルサービズ(株)	1,323,300	1,152,800		1,152,800	一般	6.4.1 } 7.3.31	6.7.22 6.10.16 7.1.23	153,450 391,050 347,050 (小計891,550)	建築物の環境衛生管理業務	
6	エレベーター保守点検業務委託	フジテック(株)静岡支店	665,280	665,280		665,280	随契	6.4.1 } 7.3.31	6.5.22 6.6.24 6.7.24 6.8.30 6.9.20 6.10.21 6.11.25 6.12.24 7.1.28	55,440 55,440 55,440 55,440 55,440 55,440 55,440 55,440 55,440 (小計498,960)	エレベーター保守点検業務	随契 1号 (単独)
7	静岡県立清水東高等学校外3校警備業務委託	総合警備保障(株)静岡支社	10,467,600	(7,128,000)		(7,128,000)	一般	6.10.1 } 11.9.30	6.11.29 6.12.24 7.1.31	118,800 118,800 118,800 (小計356,400)	機械警備	R6長期 清水東 清水南 清水西 清水特支
8	静岡県立清水東高等学校東北大学研修旅行業務委託	東武トップツアーズ(株)静岡支店	1,398,450	1,368,400		1,368,400	指名	6.6.6 } 6.8.30	6.9.20	1,368,400  (小計1,368,400)	東北大学研修旅行に係る移動、宿泊等の手配	
9	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務委託	(株)総合美装ワタナベ	129,250	129,250		129,250	随契	6.12.6 } 7.2.28	7.1.31	129,250 (小計129,250)	不燃物処分	随契 1号 (少額)
	事務関係 計	9件	35,323,682	6,984,054	0	6,984,054				7,089,368		
	(工事関係)											
	工事関係 計	0件										
	合計	9件	35,323,682	6,984,054	0	6,984,054				7,089,368		

□□□□□

委託料に関する調

(令和6年度)

(令和7年1月31日)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支 出 年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	可燃物収集運搬処理業務	丸徳商事(有)	/	1回あたり 18,700円 1Kgあたり 11円		1回あたり 18,700円 1Kgあたり 11円	/	6.4.9 ～ 7.3.31	/	/	産廃(可燃物)処理	清水西 単価契約
参考 2	自家用電気工作物保安管理業務	高橋電気保安管理事務所	/	1,914,000		1,914,000	/	6.4.1 ～ 7.3.31	/	/	電気工作物の保守点検	清水南
参考 3	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有)コーセイ産業	/	1,812,690		1,812,690	/	6.9.17 ～ 7.2.28	/	/	建物・設備の定期点検	清水南
参考 4	ガスヒートポンプ点検業務	(株)ユアーズ静岡	/	2,409,000		2,409,000	/	6.5.22 ～ 7.3.31	/	/	GHPの点検及び調整	静岡
	計	4件		6,135,690	0	6,135,690						

□□□□□

### 補助金支出調

(令和5年度)

整理番号	対象事業名	交付先	補助の根拠	事業の実績	総事業費	補助金額	補助率	交付決定		交付		事業完了		摘要
								年月日	金額	年月日	金額	年月日	確認年月日	
1	高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金	定時制生徒7名	高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱	定時制課程の教科書等購入費補助及び夜食費補助	円 130,895	円 130,895	教科書10割 夜食費定額	6.3.6	円 36,125	6.3.26	円 36,125	6.3.31	6.3.31	
								6.3.6	94,770	6.3.26	94,770	6.3.31	6.3.31	
計					130,895	130,895		130,895		130,895				

### 負担金支出調

(令和5年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長会第75回総会研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	5.5.9
2	全国普通科高等学校校長会会費	全国普通科高等学校校長会	規約による	研究発表・研究協議会	417,000	5.5.31
3	全国高等学校教頭・副校長会総会研究協議大会参加費	全国高等学校教頭・副校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	4,000	5.6.28
4	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	5.7.4
5	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長会教育研究協議会参加費	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会	開催要項による	研究発表・研究協議会	5,000	5.7.10
6	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	5.7.28
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分 542名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	16,097,400	5.7.31
8	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第1期分 33名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	267,300	5.7.31
9	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料 (第1期分 1名分)	高等学校等修学支援事業費補助金(学び直しへの支援)交付要綱	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,100	5.7.31
10	全国普通科高等学校長会第73回総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,300	5.8.31
11	第51回全国理数科教育研究大会参加費	全国理数科高等学校校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	5,000	5.9.1
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 544名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	26,829,000	5.10.31
13	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第2期分 32名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	418,500	5.10.31
14	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料 (第2期分 2名分)	高等学校等修学支援事業費補助金(学び直しへの支援)交付要綱	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	24,300	5.10.31
15	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料 (第2期分 1名分)	高等学校等修学支援事業費補助金(学び直しへの支援)交付要綱	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	2,700	5.11.30

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
16	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	△9,900	5.12.8
17	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	6.1.15
18	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期分 541名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	21,393,900	6.1.31
19	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第3期分 30名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	307,800	6.1.31
20	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料 (第3期分 3名分)	高等学校等修学支援事業費補助金(学び直しへの支援)交付要綱	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	32,400	6.1.31
21	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第2・3期分 2名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	35,100	6.2.16
22	駿台教育探究セミナー受講料	駿台教育センター株式会社	講座案内・見積書による	オンリーワンハイスクール事業	109,090	6.3.7
23	駿台教育探究セミナー受講料	駿台教育センター株式会社	講座案内・見積書による	オンリーワンハイスクール事業	71,940	6.4.10
計		23件			66,076,430	

### 負担金支出調

(令和6年度)  
(令和7年1月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長会第76回総会研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	研究発表・研究協議会	4,000	6.5.2
2	全国定時制通信制高等学校長会第71回総会研究協議会参加費	全国定時制通信制高等学校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	1,000	6.5.22
3	全国普通科高等学校長会会費	全国普通科高等学校長会	規約による	研究発表・研究協議会	416,000	6.5.27
4	全国理数科高等学校長会会費、研究大会負担金	全国理数科高等学校長会	規約による	研究発表・研究協議会	132,000	6.6.18
5	全国高等学校教頭・副校長会総会研究協議大会参加費	全国高等学校教頭・副校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	4,000	6.6.28
6	第67回全国学校保健主事研究大会参加費	第67回全国学校保健主事研究大会実行委員長	開催要項による	研究発表・研究協議会	1,500	6.7.8
7	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	6.7.8
8	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第57回東海支部総会・研究協議会参加費	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	6.7.10
9	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	6.7.31
10	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 540名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	16,038,000	6.7.31
11	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 35名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	283,500	6.7.31
12	全国普通科高等学校長会第74回総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校長会	開催要項による	研究発表・研究協議会	6,000	6.8.23
13	東海地区高等学校教頭・副校長会総会研究協議会参加費	東海地区高等学校教頭・副校長連絡協議会会長	開催要項による	研究発表・研究協議会	2,000	6.9.30
14	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 525名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	25,967,700	6.10.31
15	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 35名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	459,000	6.10.31

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
16	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第2期分 1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,800	6.11.13
17	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	6.11.15
18	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期分 524名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	20,750,400	7.1.31
19	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第3期分 34名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	367,200	7.1.31
計		19件			64,498,600	

建 築

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
		該当なし		円	円	円	円
		合 計					0

(参考)

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
1	教育管理費	清 水 東 高 等 学 校 旧特別教室棟解体他工事	静岡市清水区 秋吉町地内	円 180,356,000	円 137,500,000	円 28,039,000	円 165,539,000
2	教育管理費	清 水 東 高 等 学 校 電 気 設 備 改 修 工 事	静岡市清水区 秋吉町地内	61,402,000	58,300,000	3,927,000	62,227,000
3	教育管理費	清 水 東 高 等 学 校 機 械 設 備 改 修 工 事	静岡市清水区 秋吉町地内	11,539,000	11,330,000	1,925,000	13,255,000
		合 計	3件	253,297,000	207,130,000	33,891,000	241,021,000

工 事 調

契約 締結 方法	受注者	着 手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財産 台 帳	摘 要
		着手 完成	円		—	令達日 支払日
			0			

(令和5年度)

契約 締結 方法	受注者	着 手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財産 台 帳	摘 要
一 般	(株)トウースリー	着手 5.6.20 完成 7.1.20	円 165,539,000	旧特別教室棟解体工事	済	支払日 7.3.7 本庁経理分 教育施設課
一 般	寺田電機工業(株)	着手 5.6.15 完成 6.2.16	62,227,000	旧特別教室棟解体工事に伴う切り回し工事等	—	支払日 6.3.19 本庁経理分 教育施設課
一 般	山武設備(株)	着手 5.6.22 完成 5.11.20	13,255,000	旧特別教室棟解体工事に伴う切り回し工事等	—	支払日 5.12.22 本庁経理分 教育施設課
			241,021,000			

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当初額	変 更 増減額	計	
1	教育管理費	静岡県立清水東高等学校 部 室 設 置 工 事	静岡市清水区 秋吉町地内	円 2,442,000	円 2,398,000	円 0	円 2,398,000	随契
		合 計	1件	2,442,000	2,398,000	0	2,398,000	

(参考)

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当初額	変 更 増減額	計	
1	教育管理費	清 水 東 高 等 学 校 渡り廊下新築他工事	静岡市清水区 秋吉町地内	44,451,000	43,780,000	5,731,000	49,511,000	一 般
2	教育管理費	清 水 東 高 等 学 校 電 気 設 備 改 修 工 事 (その2)	静岡市清水区 秋吉町地内	25,971,000	25,300,000	2,046,000	27,346,000	一 般
		合 計	2件	70,422,000	69,080,000	7,777,000	76,857,000	

事 調

(令和6年度)  
(令和7年1月31日現在)

受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財産 台 帳	摘 要
(有)エイコー東海	着手 6.7.25 完成 6.11.1	円 2,398,000	野球部部室用として、物置2棟を設置	済	令達日 6.7.9 支払日 6.11.29
		2,398,000			

(令和6年度)  
(令和7年1月31日現在)

受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財産 台 帳	摘 要
た か 井 建 設 (株)	着手 6.3.18 完成 6.11.25	49,511,000	渡り廊下新築、駐車場新設工事	済	支払日 6.12.20 本庁経理分 教育施設課
府 中 電 機 工 業 (株)	着手 6.3.18 完成 6.10.18	27,346,000	旧特別教室棟解体工事に伴う切り直し工事等	済	支払日 6.12.10 本庁経理分 教育施設課
		76,857,000			

□□□□□

## 公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令 和 5 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令 和 6 年 3 月 31 日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産	/	千円 4,270,672	/	千円 0	/	千円 37,709	/	千円 4,232,963	
土 地	m <sup>2</sup> 36,552.47	3,090,862	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 36,552.47	3,090,862	
立木竹	本 47	1,562	本		本 12	207	本 35	1,355	
建 物	m <sup>2</sup> 7,590.08 ----- 17,727.70	1,065,700	-----		1,291.25 ----- 4,260.28	30,886	m <sup>2</sup> 6,298.83 ----- 13,467.42	1,034,814	
工作物	個 112	112,548	個		個 22	6,616	個 90	105,932	
普通財産	/	58,043	/	24,443	/		/	82,486	
土 地	m <sup>2</sup> 779.20	49,506	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 779.20	49,506	
立木竹	本 0	0	本		本		本 0	0	
建 物	m <sup>2</sup> 159.50 ----- 298.73	8,537	1,240.47 ----- 4,209.50	19,859	-----		m <sup>2</sup> 1,399.97 ----- 4,508.23	28,396	
工作物	個 0	0	個 9	4,584	個		個 9	4,584	
公有財産に準ずるもの	/	127	/		/		/	127	
電話加入権	件 5	127	件		件		件 5	127	

□□□□□

## 公 有 財 産 調

(令和6年度)  
(令和7年1月31日現在)

区 分	令 和 6 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令 和 7 年 1 月 31 日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産	/	千円 4,232,963	/	千円 74,156	/	千円 7,535	/	千円 4,299,584	
土 地	m <sup>2</sup> 36,552.47	3,090,862	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 36,552.47	3,090,862	
立木竹	本 35	1,355	本		本 5	119	本 30	1,236	
建 物	m <sup>2</sup> 6,298.83 ----- 13,467.42	1,034,814	-----		-----	4,928	m <sup>2</sup> 6,298.83 ----- 13,467.42	1,029,886	
工作物	個 90	105,932	個 30	74,156	個 3	2,488	個 117	177,600	
普通財産	/	82,486	/		/	26,008	/	56,478	
土 地	m <sup>2</sup> 779.20	49,506	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 779.20	49,506	
立木竹	本 0	0	本		本		本 0	0	
建 物	m <sup>2</sup> 1,399.97 ----- 4,508.23	28,396	-----		1,240.47 ----- 4,209.50	21,424	m <sup>2</sup> 159.50 ----- 298.73	6,972	
工作物	個 9	4,584	個		個 9	4,584	個 0	0	
公有財産に準ずるもの	/	127	/		/		/	127	
電話加入権	件 5	127	件		件		件 5	127	

□□□□□

## 借 地 借 家 等 調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	武道場	静岡市清 水区秋吉 町5-10	鉄骨 鉄筋 平屋 建	鉄骨 鉄筋 平屋 建	m <sup>2</sup> 建1,293.87 延1,293.87	円	円 無償	2.4.1 ) 7.3.31	(一社)清水東 高等学校後援 会長	
2	建物	弓道場	静岡市清 水区秋吉 町5-10	鉄 骨 平屋建	鉄 骨 平屋建	建90.35 延90.35		無償	2.4.1 ) 7.3.31	清水東高等学 校PTA会長	
3	建物	部室	静岡市清 水区秋吉 町5-10	木 造 平屋建	木 造 平屋建	建22.68 延22.68		無償	2.4.1 ) 7.3.31	清水東高等学 校PTA会長	
4	建物	矢場	静岡市清 水区秋吉 町5-10	鉄 骨 平屋建	鉄 骨 平屋建	建39.96 延39.96		無償	2.4.1 ) 7.3.31	清水東高等学 校PTA会長	
5	工作物	夜間 照明	静岡市清 水区秋吉 町5-10	コンク リート 柱	コンク リート 柱	0.57		無償	2.4.1 ) 7.3.31	清水東高等学 校PTA会長	
計								0円			

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
長期継続 契約	静岡県立清水東高等学校外3校警備業務委託	清水東高校外3校の機械警備 契約対象校 清水東、清水西 清水南、清水特支 (契約日) R1.9.2	6,567,000	円 656,700	円 1,313,400	円 1,313,400	円 1,313,400	円 1,313,400	円 656,700
	静岡県立清水東高等学校外2校電子複写機賃貸借契約	清水東高校外2校の電子複写機の賃貸借及び使用9台 契約対象高 清水東、清水西 清水南 (契約日) H31.4.1	7,444,440	1,478,040	1,491,600	1,491,600	1,491,600	1,491,600	

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期継続 契約	静岡県立清水東高等学校外3校警備業務委託	清水東高校外3校の機械警備 契約対象校 清水東、清水西 清水南、清水特支 (契約日) R6.9.17	7,128,000	円 712,800	円 1,425,600	円 1,425,600	円 1,425,600	円 1,425,600	円 712,800
	静岡県立清水東高等学校外2校電子複写機賃貸借契約	清水東高校外2校の電子複写機の賃貸借及び使用8台 契約対象高 清水東、清水西 清水南 (契約日) R6.4.1	8,177,400	1,635,480	1,635,480	1,635,480	1,635,480	1,635,480	

□□□□□

## 行政財産貸付・使用許可調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用 許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	8本	1,500	12,000	2.4.1~7.3.31	中部電力パワーグリッド(株) 清水営業所	電柱等
2	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	7本	1,500	10,500	2.4.1~7.3.31	西日本電信電話(株)静岡支店	電柱等
3	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	1本	1,500	1,500	2.4.1~7.3.31	(株)トコちゃんねる静岡	鋼管柱
4	建物	事務所建	静岡市清水区 秋吉町5-10	体育 館	RC 2F	1.00㎡		免除	2.4.1~7.3.31	静岡市長	防災薬品等収納庫
5	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	1.50㎡		免除	4.4.1~7.3.31	静岡市長	非常用広報無線
6	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	1,293.87㎡		免除	2.4.1~7.3.31	(一社)清水東高等学校後援会長	柔剣道場
7	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	152.99㎡		免除	2.4.1~7.3.31	清水東高等学校PTA会長	弓道場等
8	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	6.00㎡		免除	3.4.1~8.3.31	自由が丘自治会会長	防災器材収納庫
9	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	0.57㎡		免除	2.4.1~7.3.31	清水東高等学校PTA会長	夜間照明
10	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	3.92㎡		免除	2.4.1~7.3.31	(一社)清水東高等学校後援会長	校歌碑
11	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	1.44㎡		免除	2.4.1~7.3.31	清水東高等学校同窓会会長	記念像
12	建物	事務所建	静岡市清水区 秋吉町5-10	校舎	RC 4F	3.30㎡		免除	6.4.1~9.3.31	清水東高等学校PTA会長	団体職員執務場所
13	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	3.64㎡		免除	3.4.1~8.3.31	秋吉町自治会会長	防災器材収納庫
14	建物	事務所建	静岡市清水区 秋吉町5-10	校舎	鉄骨 造 4F	3.30㎡		免除	6.4.1~9.3.31	清水東高等学校同窓会会長	団体職員執務場所
15	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	0.96㎡		免除	4.1.1~7.3.31	静岡市長	避難地等標識板
16	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	0.18㎡		免除	4.1.1~7.3.31	静岡市長	海拔表示
17	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	2.00㎡		740,000	4.4.1~7.3.31	サントリービバレッジソリューション(株)	自動販売機
18	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	2.00㎡		740,000	4.4.1~7.3.31	サントリービバレッジソリューション(株)	自動販売機
19	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	24.42㎡		免除	6.4.20~6.6.14	静岡市清水区選挙管理委員会	選挙ポスター掲示場
20	土地	学校敷地	静岡市清水区 秋吉町5-10	学校 敷地	学校 敷地	13.65㎡		免除	6.10.7~6.11.15	静岡市清水区選挙管理委員会	選挙ポスター掲示場
21	建物	事務所建	静岡市清水区 秋吉町5-10	校舎	RC4F 他	2580.51㎡		免除	7.1.17~7.1.19	国立大学法人静岡大学	大学入学共通テスト
合計								1,504,000			

□□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用 許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	土地	静岡市清水区 西久保453-2	宅地	宅地	2本	1,500	3,000 円	4.4.1～7.3.31	中部電力パワーグリッド(株) 清水営業所	電柱等
合計								3,000			

□□□□□

### 職員公舎管理状況調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	所在地	建 築	構 造	管 理	入 居	B の 内	空 屋	摘 要
		年 月		戸(室)数 (A)	戸(室)数 (B)	他事務所職員 入居戸(室)数	戸(室)数 (A-B)	
1	静岡市清水区 西久保453-2	S57. 2	RC2F 1棟	4	0	0	4	空家 H30. 8. 1 ~ R3. 4. 1 ~ R3. 8. 14 ~ R5. 1. 21 ~
	計			4	0	0	4	

## 主要備品調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	12-01	雑機器	仮設トイレ(一式) 一般用・障害者用18基	年2回 災害時の仮設トイレ、訓練で使用	平成17年 4月	3,557,400
2	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 45° レッグプレスマシン	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	令和6年 3月	1,441,000
3	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 デュアルアジャスタブルプーリー	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	令和6年 3月	1,421,521
4	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 スミスマシン	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	令和6年 3月	1,400,883
5	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 デュアルアジャスタブルプーリー	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	令和6年 3月	1,334,960
6	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 アダクター・エクステンション	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	令和6年 3月	1,000,010
7	10-07	鍵盤楽器	ピアノ アップライトピアノ YU3	月8回(年間88日) 音楽授業に使用	平成12年 3月	684,600
8	01-04	その他の収納保管庫	スーパーアネックス薬品庫 ANX-100M	毎日(年間240日) 薬品庫で使用	令和5年 2月	660,000
9	02-01	その他の情報処理機器	KS-高校-採点アンケートセットPLUSライト版 SR-1800EXplus	年間20日 アンケート集計に使用	平成30年 3月	596,160
10	10-07	鍵盤楽器	鍵盤楽器 ピアノグランド	月8回(年間88日) 音楽授業に使用	昭和49年 3月	570,000
11	03-03	プロジェクター	プロジェクター ビジネスプロジェクター	月8回(年間88日) 授業等に使用	令和3年 3月	566,500
12	01-18	ローパーテーション	スチールローパーテーション	毎日(年間240日) 定時制職員室用に使用	令和5年 2月	495,000
13	01-04	書類収納庫	スチール書架 ライブラック(LR) 大型本	毎日(年間240日) 図書館で使用	令和5年 2月	477,400
14	02-01	その他の情報処理機器	校内LANサーバー等(一式)	毎日(年間240日) 情報等授業に使用	平成29年 3月	475,956
15	01-18	ローパーテーション	玄関打ち合わせブース衝立 H1600 こげ茶	毎日(年間240日) 接客対応用に使用	平成30年 8月	430,920
16	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用器具 パワーマックス	毎日(年間240日) 筋力トレーニングに使用	平成14年 3月	430,500
17	01-99	その他の庁用機器	その他の庁用機器 雨天用マット2400×12500ブラウン	毎日(年間240日) 入校時の足ふきとして使用	令和5年 3月	429,000
18	02-02	テレビ	プラズマテレビ TH-P58V1	月8回(年間88日) 理科授業で使用	平成22年 2月	399,000
19	10-12	トレーニング用器具	体力発電機	月8回(年間88日) 筋力トレーニングに使用	令和4年 8月	398,000
20	10-12	トレーニング用器具	体力発電機	月8回(年間88日) 筋力トレーニングに使用	令和4年 8月	398,000

□□□□□

## 職 員 調

全日制課程

(令和7年4月1日現在)

整理番号	職名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	井 島 秀 樹		□□□	□□	□□□
2	副校長	山 田 竜 二		□□□	□□	□□□
3	教頭	幾 留 純 二		□□□	□□	□□□
4	事務長	岩 堀 伸 昭	総括	□□□	□□	□□□
5	教諭	川 端 浩 之	社会	□□□	□□	□□□
6	〃	窪 美 正 一	数学	□□□	□□	□□□
7	〃	田 中 正 夫	理科	□□□	□□	□□□
8	〃	谷 下 有知子	国語	□□□	□□	□□□
9	〃	酒 井 み ほ	家庭	□□□	□□	□□□
10	〃	中 山 千 仁	英語	□□□	□□	□□□
11	〃	伊 丹 淳	理科	□□□	□□	□□□
12	〃	清 水 裕 美	国語	□□□	□□	□□□
13	〃	谷 口 裕美枝	理科	□□□	□□	□□□
14	〃	片 山 聡	保体	□□□	□□	□□□
15	〃	植 松 直 人	数学	□□□	□□	□□□
16	〃	佐々木 靖 之	保体	□□□	□□	□□□
17	〃	鵜 飼 知可世	英語	□□□	□□	□□□
18	〃	鈴 木 豊	社会	□□□	□□	□□□
19	〃	大 川 晃 広	保体	□□□	□□	□□□
20	〃	清 水 道 晃	数学	□□□	□□	□□□
21	〃	齋 藤 孝 之	保体	□□□	□□	□□□
22	〃	伴 幹 子	数学	□□□	□□	□□□
23	〃	海 野 弘 樹	社会	□□□	□□	□□□
24	〃	谷 戸 涼 子	英語	□□□	□□	□□□
25	〃	角 尾 麗 華	国語	□□□	□□	□□□
26	〃	武 田 直 隆	保体	□□□	□□	□□□
27	〃	林 慈 子	英語	□□□	□□	□□□
28	〃	江 川 大 器	社会	□□□	□□	□□□
29	〃	田 開 伯 幸	数学	□□□	□□	□□□
30	〃	立 花 剛	数学	□□□	□□	□□□
31	〃	原 川 理恵子	国語	□□□	□□	□□□
32	〃	廣 澤 一 徳	理科	□□□	□□	□□□
33	〃	武 村 真 希	英語	□□□	□□	□□□
34	〃	田 代 侑 子	国語	□□□	□□	□□□
35	〃	清 水 敬 也	英語	□□□	□□	□□□
36	〃	押 尾 純 也	理科	□□□	□□	□□□
37	〃	宇 藤 千 紗	英語	□□□	□□	□□□
38	〃	市 川 志 保	国語	□□□	□□	□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
39	教諭	太田博理	数学	□□□	□□	□□□
40	〃	インベテデーロ アシユリー	英語	□□□	□□	□□□
41	〃	青柳隼人	英語	□□□	□□	□□□
42	〃	小池智也	理科	□□□	□□	□□□
43	〃	梶川通仁	理科	□□□	□□	□□□
44	〃	坂下佳輝	数学	□□□	□□	□□□
45	〃	河波 凧	国語	□□□	□□	□□□
46	〃	牧田秀子	英語	□□□	□□	□□□
47	〃	佐野澄広	英語	□□□	□□	□□□
48	〃	白鳥 哲	音楽	□□□	□□	□□□
49	〃	野田 学	社会	□□□	□□	□□□
50	〃	八木朋之	国語	□□□	□□	□□□
51	〃	清水雄三	理科	□□□	□□	□□□
52	〃	矢島 一	社会	□□□	□□	□□□
53	〃	高橋美朝	英語	□□□	□□	□□□
54	〃	藤澤徳芳	数学	□□□	□□	□□□
55	養護教諭	田澤大瑛	養護	□□□	□□	□□□
56	実習助手	松浦恵子	理科	□□□	□□	□□□
57	主幹	森川恵実	庶務	□□□	□□	□□□
58	主査	石井正春	管財	□□□	□□	□□□
59	〃	稲葉寛子	庶務	□□□	□□	□□□
60	〃	岡村千紗子	会計	□□□	□□	□□□
平均年数					3.0	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	鈴木 讓	社会	□□□	□□	□□□
2	実習助手(任)	秋山幸子	理科	□□□	□□	
3	非常勤講師	岡村俊卓	数学	□□□	□□	□□□
4	〃	山梨恵史	理科	□□□	□□	□□□
5	〃	秋山浩一	理科	□□□	□□	□□□
6	〃	八重樫亮介	理科	□□□	□□	□□□
7	〃	吉村 賢	保健体育	□□□	□□	□□□
8	〃	望月賢一郎	情報	□□□	□□	□□□
9	〃	大石桃子	美術	□□□	□□	□□□
10	外国語指導講師	テライ アン	英語	□□□	□□	
11	非常勤労務職員	中川 進	用務	□□□	□□	
12	非常勤労務職員	浅井敏光	用務	□□□	□□	
13	非常勤労務職員	小野田舞	用務	□□□	□□	
14	非常勤嘱託員	原田真由美	庶務	□□□	□□	
15	スクールカウンセラー	前原真弓	教育相談	□□□	□□	□□□
16	学校医 健康管理医	竹内康史	内科	□□□	□□	
17	学校医	中村好邦	眼科	□□□	□□	
18	〃	杉山健一	耳鼻科	□□□	□□	
19	学校歯科医	堀 穰	歯科	□□□	□□	
20	学校薬剤師	杉本道信		□□□	□□	

## 職 員 調

定時制課程

(令和7年4月1日現在)

整理番号	職名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教頭	杉 木 充		□□□	□□	□□□
2	教諭	小 林 導太郎	英語	□□□	□□	□□□
3	〃	田 邊 睦	家庭	□□□	□□	□□□
4	〃	春 田 謙 吾	数学	□□□	□□	□□□
5	〃	伊 藤 仰津紀	保体	□□□	□□	□□□
6	〃	鈴 木 惇	理科	□□□	□□	□□□
7	〃	比 嘉 亜 澄	社会	□□□	□□	□□□
8	養護教諭	桐 田 篤 子	養護	□□□	□□	□□□
9	主任	望 月 賢 治	庶務	□□□	□□	□□□
平均年数					2.0	

整理番号	職名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(任)	神 田 雅 文	国語	□□□	□□	□□□
2	非常勤講師	河 野 哲 也	国語	□□□	□□	□□□
3	〃	吉 田 昌 弘	社会	□□□	□□	□□□
4	〃	小 沼 良 哉	社会	□□□	□□	□□□
5	〃	吉 村 賢	保体	□□□	□□	□□□
6	〃	北 川 正 人	音楽	□□□	□□	□□□
7	〃	漆 畑 雅 子	美術	□□□	□□	□□□
8	〃	海 野 茂 雄	英語	□□□	□□	□□□
9	〃	望 月 賢一郎	情報	□□□	□□	□□□

□□□□□

### 職員の年齢調

(全日制)

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	2	
30歳以上40歳未満	10	
40歳以上50歳未満	16	
50歳以上56歳未満	7	
56歳以上61歳未満	15	
61歳以上	10	再任用10人
計	60	平均年齢 50.2歳

(定時制)

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	4	
30歳以上40歳未満	0	
40歳以上50歳未満	1	
50歳以上56歳未満	1	
56歳以上61歳未満	3	
61歳以上	0	
計	9	平均年齢 41.7歳

□□□□□

## 健康管理

### 1 6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 72人 職員数 72人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

該当なし

### 2 7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	21(21)人
D 2		要経過観察	7(7)人
D 3		医 療 不 要	38(38)人
区 分 者 計			66(66)人
未区分者数			3(3)人
合 計			69(69)人

(1) 管理区分A～C 2 該当者  
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

- ア 産休・育休  人
- イ 新規採用  人
- ウ 自己都合による未受診  人
- エ その他  人